

幼 兒 教 育

第 二 十 七 卷 五 月 號 第 五 號

東 京 女 子 高 等 師 範 學 校 內
日 本 幼 稚 園 協 會

滿洲教育專門學校教授

文學士朝日直樹先生譯

全一冊紙數約四百五十頁
定價金二圓八十錢 送料金十八錢

新刊

行動主義心理學

我が學界の碩學が推獎せる世界的名著の譯出

コロンビヤ大學教授として令名高きロバート、エス、ウッドワースの名著サイコロジ（エスターデイ オブメンタルライフ）が行動主義に傾ける心理學の研究として非常に異彩を放つてゐる。今回譯者として非常な學問的勞作を熱意の努力を以て爲めに全二ヶ年の日子を傾倒して、漸く其の翻譯を完成した。本書は内省心理學を從來感覺より始むべきを反射反應より始め、全書一貫刺戟と應答の圖式に於て適當なる解釋を爲せる一大研究で本書の翻譯完成に據りて我心理學徒が研究の至便を得る事は實に多大なるものである。斯學研究者教育家も思想に關聯せる科學者に本書を薦む、殊に専門學校の教科用としての本書の價値は既に決定的である。

東京高師教授
文學博士
榎崎淺太郎著
先生新著

三版 心理學概論 第一卷

菊本價
全一冊
裝四冊
釘八錢
錢八十

見よ！偉大なる心理學者が苦難の記録其研究

博士が心理學の研究に志ざされてより學的生活妙に廿幾歳併して、貴重なる其の研究は堂に入り奥に達し聲價既に世界に喧傳せらるる言はる、如く先生の學問的興味は人間性就中その精神性特に文化精神性の追究になる眞の人間魂の本質を窺ふ人間の心の喜、心の樂、心の哀、と言ふ學問的志念は疑つて本書となつた。實に偉大なる心理學者の本質の記録である。先づ現代心理學の諸傾向に筆を起し次に心理學序論に入り更に人間性概論に到り最後は人間性各論に於て先生日常の蘊著を傾注せらる。その組織的體系は言はずも、構想の偉大、立論の正確更に嚴正的批判、獨白的研究等斯學の研究に勿論教育家一般識者は本書に依つて開眼せられ、指導せられ、研究の前途を指示せらる。事必然である。

東京高師
範學校教授
文學博士
榎崎淺太郎著

四版 兒童精神力的學研究

一版 一般検査法の試み

三版 選拔法概論

五版 統計法概要

發行所 東京市牛車水區中文字館書店

賜本誌每號皇族殿下覽

大學習雜誌

編輯會究研導指習學

東京兩高等師範學校
廣島高等師範學校
奈良女子高等師範學校
府立中學校・女學校

各教官諸先生が每
號執筆さ
れます。

男子幼稚園

特に四歳以上の男生の友として編まれたもの、初めて理想の學習雜誌を見たところ評さる(定價卅錢)

第一年生

一年生の人には全部お読み下さい、學校といふものな理解させ好にさせ天分を助長す良雜誌(定價卅五錢)

第二年生

學課に彩色繪に讀物に光彩幽雅。時間の經つもの忘れ。本誌讀者は全優等生。(定價卅五錢)

第五年生

初等教育界の權威者が全部執筆せる好雜誌他にありや、難解の學課も直ちに氷解さる。(定價四十錢)

女子幼稚園

男子幼稚園と同じく四歳以上の女生の友、切抜貼込理科算術言語論繪の稽古等兒童の好同伴(定價卅錢)

第二年生

群小雜誌と選を異にし飽く迄も學習に主眼を置き自然に成績を優良ならしめる兒童の友(定價卅五錢)

第四年生

その人を見んとせばその讀む本を見よ!本誌の如き天下一の良雜誌の讀者は模範生と仰がる(定價卅五錢)

第六年生

引續き本誌を愛讀せば中學校女學校の入學試験も少しも恐しい事はない、諸君の救ひの神(定價四十錢)

—(毎月一回一日發行)—
趣味と學習を兼ねた雜誌!
あなたを優等生にする雜誌!
全國小學生間大評判雜誌!

發行所

東京市神保町六番地
神田區

小學館

振替

東京大阪
一四一三
一五二六
一〇〇八
七〇五八
番番番



育教の兒幼輯編會協園稚幼本日

會長

東京女子高等師範學校校長

吉岡郷甫

主幹

東京女子高等師範學校教授

堀七藏

贊助員

東京高師教授

巖谷秀雄

東洋大學教授

高島平三郎

東京帝大醫科講師

醫博

太田孝之

東京府女子師範學校長

龍山義亮

東京高師教授

文博

大瀨甚太郎

帝國教育會理事

土川五郎

慶應大學教授

醫博

唐澤光德

松江高等學校長

野口援太郎

東洋幼稚園長

文博

岸邊福雄

京都帝大教授

乘杉嘉壽

早蕨幼稚園長

文博

久留島武彦

帝國教育會會長

野上俊夫

東京高師教授

文博

澤柳政太郎

東京女子高師教授

倉橋惣三

東京女子高師教授

文博

下田次郎

東京帝大教授

松村武雄

東京女子高師教授

文博

菅原教造

奈良女子高師校長

松本亦太郎

東京市學務課長

醫、文博

富士川游

奈良女高師附屬幼稚園主事

榎山榮次

東京女子高師講師

文博

藤井利譽

東京高等學校長

三田谷啓

文部省

文博

福士末之助

東京帝大教授

湯原元一

東京女子大學長

文博

谷本富

東京女子大學長

吉田熊次

文博

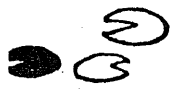
安井哲子

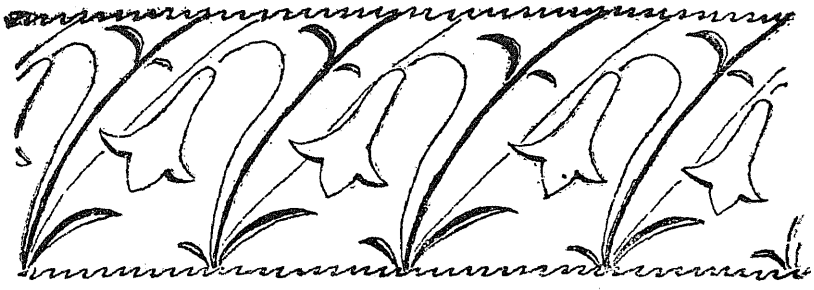
文博

安井哲子

東京女子大學長

安井哲子





第 七 十 二 卷 幼 兒 教 育 第 五 號

| | | | |
|---------------------|----------|-----|----|
| 口 繪 綠 蔭 | チヤンケンボン | | |
| 幼兒の傳染病 | 醫學博士 青木醇 | 一 | 二頁 |
| 幼稚園と尋常一年との聯絡について(二) | 木下一雄 | 一〇頁 | |
| 幼稚園生活と最初の學校生活 | 山田俊次 | 一五頁 | |
| 保育上に於ける自由意志 | 和田實 | 二四頁 | |
| 幼稚園の懷舊を辿りて(二) | 望月くに子 | 三三頁 | |
| 雜 草(二) | 大岩金 | 三六頁 | |
| 塗 繪 シャボン玉 | 及川ふみ | 四三頁 | |
| 童 話「雷様の太鼓」 | 内山憲堂 | 四四頁 | |
| 童 話「不思議な鞠」 | 水谷年惠 | 四五頁 | |
| 私の視察した歐米の幼稚園教育 | 土川五郎 | 四六頁 | |
| 遊戯 春のよろこび(つづき) | 堀七藏 | 四七頁 | |
| ある幼稚園の一日 | つばな | 四八頁 | |

最新刊

文學士 倉橋惣三氏序
日本幼稚園協會編纂

本田庄太郎畫伯
裝幀及挿畫

幼兒の樂しむお話

東京市日本橋區大傳馬町二丁目

内田老鶴圃

振替東京一二一四六番
電話浪花一三三五番

◆◆◆四六版特製函入
◆定價四〇〇餘頁
◆紙數四〇〇餘頁
◆送料金十八錢

子供はお話を聞きたがる。親も先生もお話をしてやりたい。しかし材料がない。無選せられないが選ばれてゐない。實際選擇せないのである。その選ばれたお話の集が此の書である。誰れが選んだか、東京女子高等師範學校の附屬幼稚園で幼兒達自身が選んだのである。即ち同園で口々話される多くのお話の中で幼兒の最も樂しむお話を集められたのである。現に幼兒の樂しんだお話をすべてのお話と幼稚園とへ一番確實に奨めることの出来るお話である。小さいお子さんは此儘讀んで樂しませて貰へる、大きいお子さんは自ら讀んで樂しむことが出来る。いづれにしても廣く家庭と幼稚園と小學校には是非共備へられなければならぬ物である。

倉橋惣三先生序
日本幼稚園協會編

幼兒に聽かせるお話

四六版特製本
紙數六二〇頁
定價三圓八十錢
送料十八錢

文學士 倉橋惣三氏著

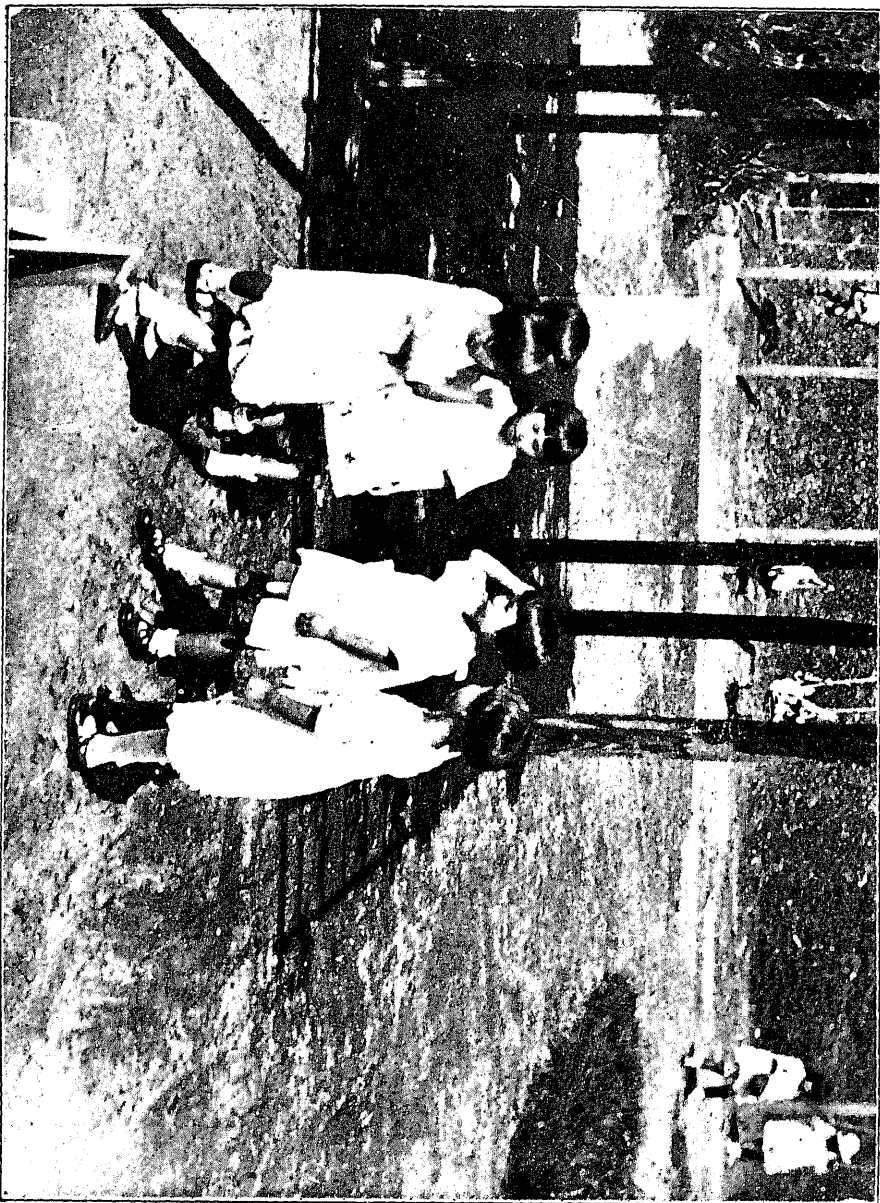
幼稚園雜草

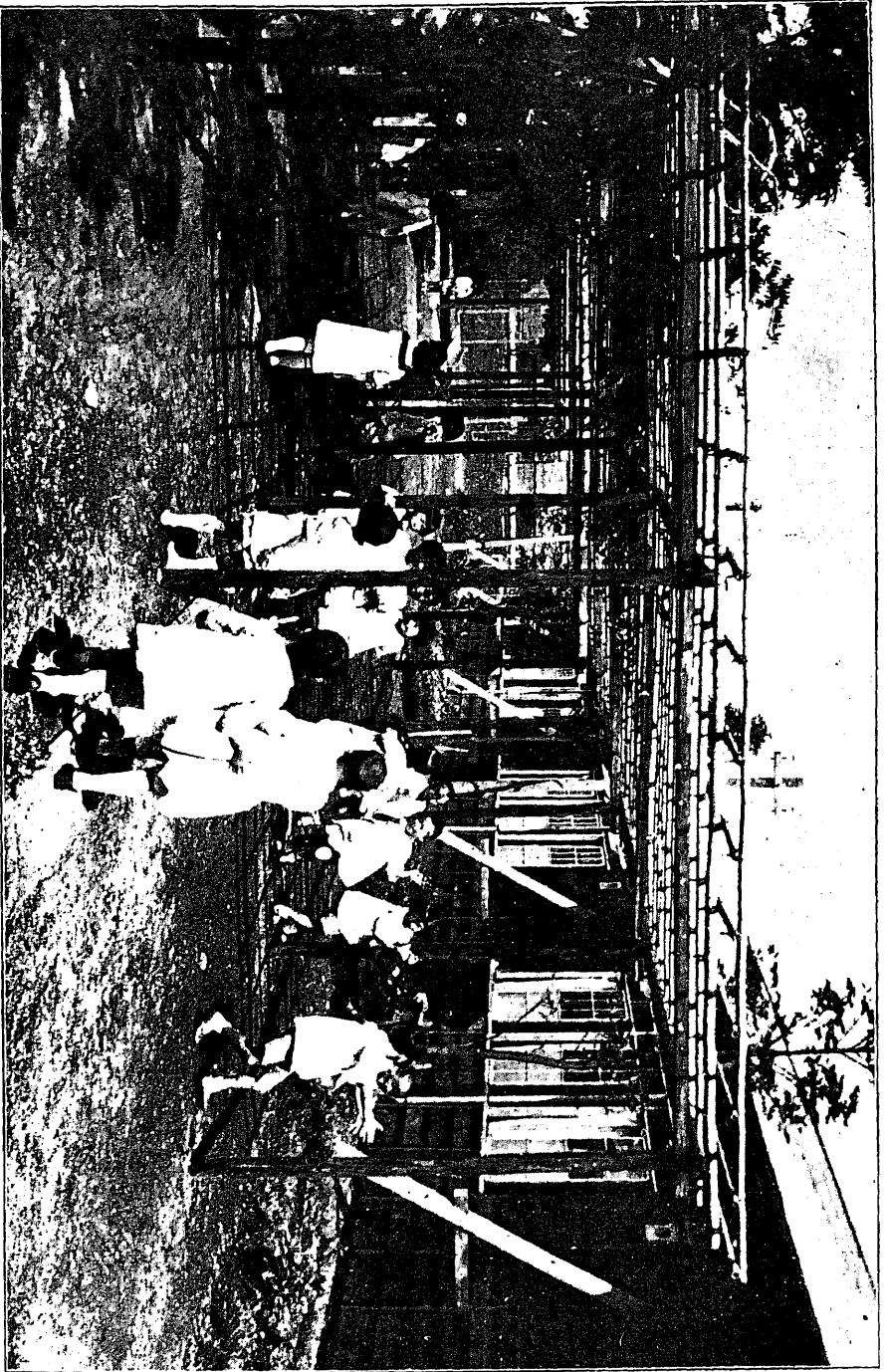
四六版上製本
紙數五二〇頁
定價二圓五十錢
送料十八錢

萬國幼稚園協會案
日本幼稚園協會譯
倉橋惣三先生序

幼稚園保育要目

菊版上製函入
高雅なる裝幀
定價一圓五十錢
送料十八錢





縁

際



號五第 育教の兒幼 卷七十二第

月五年二和昭

- 一、教育で家庭教育位重要なものはありません。家庭教育の良否は實に人一生を支配し國家の發展を左右するのであります。最近の學術は益々家庭教育の重大なる使命を立證し近時の社會現象は善良なる家庭教育の必要を痛感せしめてゐます。
- 一、家庭教育の短を補ひ幼児の心身を充分に發達せしめ將來受くべき學校教育の基礎を築くものは幼稚園教育であります。幼稚園教育の重視すべきことは天下一人も異議がないのであります。
- 一、幼児の教育は本邦唯一の幼稚園教育に關する發表機關であります。而してまた本邦唯一の家庭教育雜誌であります。
- 一、幼児の教育は幼児の教育、即ち家庭に於ける教育と幼稚園に於ける教育、更に小學校初學年教育に關する事項は縮大となく網羅し、以て家庭教育の向上を計り、幼稚園教育の進歩發展を期する大抱負をもつて産れたもので有ります。



幼兒の傳染病

醫學博士 青木醇一

疾病が人の年齢に大なる關係のあることは敢て云ふまでもない。小兒が大人に比して疾病に罹り易いこと又病氣に對して著しく抵抗の弱いことなどは誰でも知つてゐることである。又病氣の種類に就ても大人と小兒では著しく異なつてゐる、例へば瘧とか腦溢血とか云ふやうな病氣は壯年を過ぎた人にもみくる、反之麻疹、痘瘡、百日咳などは常に小兒のみを犯す病氣である。又同じく小兒でも年齢によつて病氣の種類も多少異なり又病氣に罹る割合も著しく異なつてゐる。五、六歳の幼兒と八、九歳の兒童とは年齢の差は僅かに二、三年であるが病氣に對する關係は可なりちがつてゐる。例へば幼兒では消化器系統の病氣や呼吸器系統の病氣が可なり多いが學齡以後になるとこれが著しく減つて來る。又小兒特有の傳染病即ち麻疹、百日咳、デフテリー、痘瘡、水痘、流行性耳下腺炎等の如きも學齡前の幼兒に多い。勿論學童にも決して少くはないが學齡以後は兒童の成長につれ年一年これ等傳染病に對する感受性が減じてくる。

近年我國では種々の傳染病が極めて多いのであるが殊に幼兒に於て著しい。これは前述のやうに幼兒は特に諸種の傳染病に對して強い感受性を持つてゐるからである。例へば疫痢の如きは三歳から五、六歳までの幼兒のみが罹患する、そして乳兒には殆んどない、又學齡以後のものには極めて少い。又麻疹の如きも滿一年以後五、六年の幼兒が特に感受性が強い。その他百日咳、ヂフテリー、水痘、流行性耳下腺炎等もほゞ同様である。それ故幼兒をもつ家庭に於ては勿論幼稚園などでも幼兒の保健上特にこれ等の小兒傳染病に對しては十分警戒して幼兒をばこれ等の傳染病に感染させぬやうに心懸けなければならぬ。

傳染病の豫防上最も大切なことは各自が傳染病に對して正しい知識をもつことである。人々が傳染病の危険をよく知り、その傳染の徑路や媒介をよく心得てゐるならば傳染病患者は著しく減る筈である。然るに日本の首都である東京市などでは四季を通じチブス、赤痢、猩紅熱、ヂフテリー等の恐るべき傳染病が未だ曾て絶えたことがない、のみならず年々歳々其數を増して行く傾向が著しい、文明國の首都として甚しい恥辱と云はねばならぬ。而してこれは要するに市民に衛生上の知識が缺けてゐることに起因してゐるのである。實際少しく衛生上の知識のある者には東京市のやうに傳染病の多いところでは常に不安と脅威とを感ぜずにはゐられない、全然衛生上の知識のないものが所謂盲目蛇に怖ぢずて泰然として構へて居ることが出来るのである。斯様な非文明病は吾々の社會から全く驅逐して吾人は今少し

く安心して健康と生命の脅威を受けずに生活したい。それには衛生上の知識の普及が最も肝要である。如何なる消毒よりも、如何なる設備よりも衛生上の知識が傳染病の豫防に最も有効であることを忘れてはならない。此意味に於て國民教育に於ても今少しく衛生知識を課する必要があるか。自己の健康をすすめる天壽を全うするために必要な知識は吾人にとつて最も大切な知識でなければならぬ。

以下幼兒にとつて最も恐るべき小兒特有の傳染病の二、三に就てその概要を述べて見たい。蓋し幼兒保健上傳染病の豫防は特に大切であるからである。

麻疹。麻疹は幼兒が特に感受性の強い傳染病である、殆んど凡ての小兒が一度は罹るものと云つても敢て過言ではない、しかも病勢が可なり激しく幼兒にとつては決して油斷のならぬ病氣である、昔から麻疹は小兒の命定めと云はれてゐるが現に我が國では年々麻疹で斃れる乳、幼兒が一萬を算してゐる。

麻疹に罹る年齢は二、三歳から五、六歳が最も多い、一度罹れば強い免疫性を得て再感することは殆んどない、又麻疹は四、五ヶ月以下の乳兒には殆んど傳染しない、つまり乳兒は先天的に麻疹に對して免疫性をもつて生れてくるのである。そして成長するにつれこの免疫性は次第に減退して一年近くになると消滅するやうになる。斯様に生後間もない幼弱な乳兒には特に麻疹に對する免疫性が附與されてゐることは生體の保護作用として誠に必要なことと云はねばならぬ。

麻疹は未だその病原體が明かでない。患兒に接近することによつて直接患兒から健康兒に傳染するこ

とが最も多いが、しかし又病原體の附着した品物などからも傳染すること勿論である。通常傳染後十日目に發病する、初めの三、四日は丁度風邪の時のやうに咳嗽や熱發がおもなる症狀である又その外結膜炎を起して眼が赤く腫れることが多い。發病四、五日後に赤いポツ／＼した發疹が全身に現はれる、同時に熱も高くなり氣分なども悪くなつてくる。この發疹は二、三日後には自然に消え、これと共に熱も下つてくる。次で全快する順序であるがいつもかう順調に治る譯ではない。餘病として氣管枝加答兒や肺炎を併發することが少くない。これ等の餘病が併發すると病氣は更に長引き殊に肺炎のためには一命を失ふことが多い。なほ麻疹に就て特に世人の注意を促したいことは麻疹後は小兒の體質が著しく悪くなることである。そして又この機會に乗じて結核の襲來を受けることの多い點である。從來健康であつた小兒が麻疹後に結核に傳染したり又は潜伏結核のある小兒が麻疹後の衰弱に引つゞいて結核の病勢が進行することは決して少くない。それ故麻疹の恢復期には特に注意して病兒の健康を一日も早く恢復させるやうに努めねばならぬ。

昨今東京市内では麻疹が猖獗を極めてゐる。斯様な際には幼稚園や小學校がその媒介となることが多い。麻疹は治癒後も暫くは傳染の危険があるから麻疹患者は全快後も當分休校させて家庭で十分靜養させるやうにしたい、早く登校させることは單に病兒の健康の恢復を遅延させるばかりでなく他の健康者に傳播させる恐れがある。

猩紅熱。猩紅熱は麻疹に稍似た傳染病である。從來も東京には絶えず散在性に發生してゐた、しかし地方には極めて稀であつた。然るに最近一、二年來九州、關西方面には可なりの流行を見るやうになつた、同時に東京地方に於ても著しく増加したやうに思ふ。この形勢から推すと今後益々多くなりはせぬかと危される。

猩紅熱は五六歳から八、九歳の小兒に最も多い。麻疹のやうに一般的の傳染はしないが可なり傳染力は強い。通常突然に三十九度、四十度位に熱發し同時に小兒が咽頭の痛みを訴へる。次で半日か一日の後には極めて細かい赤い發疹が密集して現はれる。この状態は一般に數日間つゞく。次で次第に發疹は消え又熱も追々に下降する、二週日後位にはほゞ平熱になる。丁度この頃から皮膚が剝けてくる、これが又傳染の危険があると考へられてゐる。又此の頃に屢々腎臓炎中耳炎などの餘病を併發することがある。斯様にして順調な經過なれば三四週後に全快する、しかし時には極めて劇烈な症状を呈して數日て死亡することもある。

猩紅熱は恢復後も可なり長い間傳染の危険があるから特に長く隔離する必要がある。又猩紅熱の病原體は極めて抵抗力が強く長く傳染力があるから幼稚園又は學校等に患兒の發生した際には室内の消毒は殊に嚴重なるを要する。

デフテリー。デフテリーも小兒にとつては最も危険な傳染病の一である。一、二歳から六、七歳まで

が最も犯され易い。おもに寒い季節に流行する。咳嗽や談話などに際して病兒から直接に健康兒に傳染することが多いが又物品などを介しても傳染する。症状は初め熱發して氣分が悪くなる次で咽頭の痛みを訴へる、咳嗽はないこともある、大きく口を開かせて咽頭を見ると咽頭は一帶に充血し扁桃腺は腫れてそこに白いものがついてゐる、これを義膜と呼びこゝには無數のデフテリー菌がゐる。斯様に主として咽頭の犯されたのを咽頭デフテリーと云ひ、これが最も多い形である。なほ深く進んで喉頭の犯されたものを喉頭デフテリーと云ふ。この場合は咳嗽が多く、丁度犬の遠吠えのやうな一種特異な咳嗽をするやうになる、又聲が枯れ、呼吸が著しく困難になる、これは最も危険なデフテリーで病勢の進行も極めて早いから一刻も早く醫師の治療を乞ふ必要がある。

百日咳、一年から五、六年の幼兒に最も多い。麻疹に次で傳染力の強い小兒病である。おもに咳嗽によつて患兒から健康兒へ直接に傳染する。症状は初めは風邪の時のやうな普通の咳嗽をしてゐる、熱も殆んどなく、氣分などにも變りはない。一週間も經つと咳嗽は發作的になつて來て百日咳に獨特な性質を帯びてくる。此の發作は病の輕重によつて比較的輕いものと非常に劇烈なものとがある、又咳嗽發作の回数も輕いものは一日數回ですむが重いものは數十回にも及ぶことがある。概して發作は夜間に多い。咳嗽發作の始まる前には患兒は何となく不安な状態を呈してくる、續いて烈しく咳き込んでくる、この際殆んど息を吸ふ間もなく短い咳を幾つとなくつゞける、そして其の終りに深く息を内へ引込んで一回の

發作を終ることが多い。この發作時には患兒は顔を赤くし額に冷汗を出して苦悶する。斯様な状態が一ヶ月以上二ヶ月も續くことがある。かうなると病兒の衰弱は著しくなる。次で咳嗽發作も追々に輕快するが全然咳嗽のなくなるまでは數ヶ月を要することが多い。百日咳には又屢々氣管枝肺炎を併發することが多い。そして殊に肺炎を起した場合には病は極めて重篤になる。

百日咳は麻疹以上に小兒の體質を悪くする。そして麻疹と同様に特に結核に對する抵抗力を減退させる。百日咳の經過中に結核に傳染し又は從來の潜伏結核が活動性結核に變ることは決して少くない。それ故百日咳に對しては特に榮養をよくし健康を維持するやうに努力しなければならぬ。

百日咳はその經過が著しく長いため輕患のものや恢復期のものが幼稚園や學校に通ふことが殊に多いこれは是非とも全快するまで休ませるやうにしなければならぬ、他の健康兒への傳染の危険があるのみならず本人も家庭で十分靜養して一日も早く全快するやうに努めるが利益である。

痘痢。痘痢と云ふ病氣は今のところその本態が明かでない。傳染病規則ではこれを法定傳染病としてゐるが實際は必ずしも傳染性でないものも痘痢として診定される場合が多いやうに思ふ。おもに四、五、六歳の幼兒が犯される。乳兒には痘痢と云ふ病氣は殆んどない、又學齡期以後の小兒には著しく少い。梅雨期から初秋にかけて最も多いが秋冬の候にも絶無ではない。原因は食物の不攝生によることが多いやうに思はれる。症状は極めて急激で今まで健康であつた幼兒が急に發熱し、嘔吐や下痢を起してくる

そして非常に渴を訴へるのが多い、次で多くはウト／＼眠り込む即ち嗜眠状態にある。下痢は初めは不消化物であるが後には血液を混じた粘液や膿様のものに變る、回数は一晝夜四、五回多くも十回位である。發病後半日か一日で症状は著しく險惡になり精神は朦朧として來て同時に屢々痙攣を起してくる刻々容態は惡化し、一兩日の内に死亡するのが多い。

疫痢はその經過が極めて迅速で死亡率も極めて多いから常にこれを未然に防ぐやうにしなければならぬ。殊に夏季は幼兒の食物に注意し不良な果物や不消化物の過食を戒めねばならぬ。

以上は幼兒にとつて最も恐るべき小兒傳染病の數種を挙げたのであるが、尙幼兒を犯す傳染病として流行性耳下腺炎、水痘、風疹等があるが、これ等は比較的危險の少い病氣であるから説明を省略する。なほ此外一般傳染病である赤痢やチブスも幼兒には決して少くない。その他慢性傳染病たる結核の如きも幼兒期に傳染することが最も多いことを忘れてはならぬ。

斯様に觀來る時に幼兒の保健上傳染病を避けることが如何に重要であるかと判る。幼兒をもつ母親は勿論幼兒の保育に當るものは幼兒を襲ふ傳染病に就ては特に十分の知識が必要である。そしてあの無邪氣な危險を知らない幼兒を保護してやらねばならぬ。

幼稚園と尋常一年との聯絡について (二)

東京府女師附屬主事 木 下 一 雄



(1) 序 論

前回に於て私は幼稚園と尋常一年との教育目的の歴史的敘述をなしたのであるが、第二に私はこの目的に基いて、更に初期の教育をその教育材料から考察しようと思ふ。

材料を決定する二つの方面(社會的心理的方面)——前述の如く在來の小學校と幼稚園の教育目的に關しては、相對照さるべき二つの傾向が認められた様に、その教育材料の選び方にも必然的にこれに伴ふ二方面が存したのである。即ち小學校は生活に必須な普通の知識といふことの主旨に會ふ様に、讀方書方算術等の教科の傳達に重きを置くやうになり、幼稚園は矢張りルソーの思想に據つて教育の中心を「生活に必須なるもの」に置くのでなく、「幼兒に適應するもの」換言すれば、幼兒の自然の發達を助成し、善良な性情を養ひ幼兒としての生活を完了せしむることを眼目として、それに適應するやうな材料を選んで居るのである。

併しながら今日の小學校殊に低學年にあつては既に大いに面目を改めて、學習は常に兒童の遊戯とか興味とか本能とかに結びつけられて居る。この事は特に讀方教授に於て見る事が出来る。兒童の程度に困難なる材料も生活に必須なるといふ理由のために課せられたものが、今日に於ては少くもそれらの材料が兒童の本來有する強い興味關心と出来るだけ調和されるやうに形式を變へるに至つた。その結果として幼稚園の教育の主なる材料と見做された心理的の方面が、小學校に大いに顧慮さるゝに至つたのである。

最近これらの教育材料について、主としてスペンサーやソーンダイクその他心理學者哲學者等に據る方法が行はれて居る。右によれば廣義の社會的教育材料は、1 身體の健康、2 趣味の教養、3 善良なる意志、4 社會奉仕 (a 職業、b 家庭、c 公民、d 協力同情) 等を標準として選擇さるべく、心理的材料としては、1 知識、2 慣習、3 理想、4 多方的興味を目標となすべきことが主張されて居るのである。これらの材料が重要なものであることは、こゝにいふまでもないことである。

(2) 社會的環境について

一般目的——聯絡統一せられたる幼稚園並に尋常一年の教育に基いて、社會的環境を決定するには、先づその一般的目的として、兒童幼兒の生活を能ふかぎり幸福に完全ならしむるやう注意しなければならぬ。それらの目的を達せんために、私は先づ兒童幼兒の社會的環境について要約して述べようと思

一、健康、健全な身體を持つことが子供に幸福なるものであることはいふまでもない。身體検査を有意義に行ひ、その結果を知らしめ、兒童をして健康上の知識を豊富にし、良習慣を得せしむるやうな、組織的な訓育をなすことが必要である。また赤十字社の如き國際的人道的施設の如きもよき材料であると考へられる。

二、趣味の教養、文學藝術等大作家の作品に接することは大なる幸福である。かくの如き教養は獨り社會の上流にあるものに限られた形式ではないのである。教育の初期に於ても唱歌、遊戲、談話、讀む事乃至は繪畫の鑑賞等によつて、この方面の教養に努めることは、最も意義ある教育といつてよい。

三、善なる意志、多くの人達の幸福を増す所の要素として善意志を重んずることは、これまで常に宗教家道德家の實踐し來つた所である。身體の健全なること、趣味の高きこと等は、何れも個人として社會としての向上を表明するものであるが、善なる意志は更に人類の幸福に於ける最も根本的なものであると推定することが出来る。このために我々は小學校及び幼稚園にあつても、善なる意志から互に助け合ふことを大切な事柄と見て居るのである。この精神はやがて近代社會に於ける相互扶助、權利、聯帶協同の理想にまで發展するものである。

四、社會奉仕の精神、大戰以後人類の幸福を増進する目的のために、社會奉仕の精神が唱道せられ、

何人も「奉仕」の仕事に參與することになつた。農業の機械を發明したものは、この事によつて耕作の能率を増進し、社會の需要に應ずるものである。かくの如き職業上の奉仕は多くの奉仕の中、最も重要なものであるといふことが出来る。同じ精神よりして、家庭の生活、公民としての生活、その他の協同生活のことが説明せられる。而して幼稚園及び尋常一年の教育精神の互に統一せられたる場合には、かくの如き社會生活の理會、社會慣習の尊重は、教育上誠に大切な環境となるのである。

(3) 心理的環境

次にソーンダイクに従へば、社會的環境にまで到達するために、我々は兒童の心理的所産について考へなければならぬ。

一、觀念と知識 この方面の傳達の教育的價值に關しては、——殊に低學年幼稚園について——今日やゝもすれば新しい皮相な教育者によつて等閑視されることがある。併しながら或る種の知識に豊富なることは、やがてその方面の能率に大なる影響を與へるものである。「知識は力である」とベーコンも云つた様に、知識は兒童にあつてもまた重要な力をなすものである。例へば健康を保つといふ事のためにも、知識が大なる要件をなすのである。今幼稚園尋常一年の教育を顧みると、知識を通して兒童の生活内容を豊富にすることが、屢々等閑視されて居る様である。元來兒童幼兒は知識を増すことの大なる可能性と要求とを持つて居るものである。實際上の事實に徴しても、知識内容を豊富にすることは、五歳より七歳位までの子供に既に多くの可能性を認められるのである。且これらの幼兒についてより多く教育されたといふのは知識もこれに伴つて居ることが多いのである。即ち小學校に於ては生活に必須な普

通の知識——讀方、書方、算術等——を重んずるものであるが、また幼稚園はそれらの事を遊戯やリズムの活動や談話等に於てなし得るのである。

二、習慣 幼稚園は更に習慣によつて、協同とか自制とか従順とか秩序とかの訓練を重んじなければならぬ。

三、理想 理想は或る行爲の形式についての觀念を明かにするものである。理想は行爲の指導者である。「早く寝ね、早く起きることは健康の本である」といふ理想は、正に子供の行爲を導くであらう。同様に幼稚園の幼児は「自分で着物を著るのは豪い」といふやうな理想を持つ。理想を以て導くことは、直ちに學校に於ける行爲や習慣に關するものであるが、またかゝる具體的の理想からして、漸次抽象的一般的理想に進むことが出来るのである。能動的な善なる意志の基礎として、かくの如き道德的理想の構成發展に至ることは、統一聯絡されたる幼稚園尋常一年の教育の重要なる機能となるものである。

四興味 興味については我々は之れを最も廣義に解して、生活の永遠の目的にまで資せんとして居る昔の教授に於ける如く、多く注入強制的な方法と、子供の興味に本づく方法と、その教育的價値の對照は歴然たるものである。愉快な旋律や遊戯による幼稚園の課程は、幼童に價値ある興味を起さしむるものである。かくの如き興味は幼児の行爲を決定する重要な機能を決するものであつて、幼稚園はすべての幼兒に社會經驗の型を暗示することが出来るであらう。協同生活乃至國民生活、科學、産業、音樂繪畫、文學、スポーツ等に至るまで、皆これによつて追求せられる。かくして我々は幼兒をして能率高き、趣味の深き、且役に立つ人になさうとするものである。(未完)



幼稚園生活と最初の學校生活

東京女子高等
師範學校訓導

山 内 俊 次

近來我が國幼稚園の發達は、著しいものがあり、爲めに大正十五年四月には、幼稚園令の改正を見るに至つたのであります。斯道のため、誠に慶賀すべきことであります。

然るに、それと同時に、文部省令第九號として公にされた幼稚園令及幼稚園令施行規則制定の要旨竝に施行上の注意事項を見るに及んで、聊か私共の意に見たない點があるのであります。それは外てもありません。ここに抄録して見ると次のやうな所なのであります。

「兒童ノ心身ヲ健全ニ發達セシメ、善良ナル性情ヲ涵養セムトスルニハ幼時ヨリ之ニ着手スルヲ以テ優レリトス。コレ家庭教育を禰補スヘキ幼稚園施設ノ必要アル所以ナリ。殊ニ社會生活日ニ複雑ヲ加ヘ、一家ノ事情、意ヲ子女ノ教養ニ専ラニスルコト能ハサル者漸ク多カラムトスル今日ニ在リテハ、幼稚園ノ任務ハ益々重要ノ度ヲ加ヘサルヲ得ズ。幼稚園ノ設置ハ、固ヨリ之ヲ任意トシ、市町村、市

町村組合、町村學校組合又ハ私人ヲシテ必要ニ應ジテ之ヲ設置スルヲ得シムト雖、父母共ニ勞働ニ從事シ、子女ニ對シテ家庭教育ヲ行フコト困難ナル者ノ多數住居セル地域ニ在リテハ、幼稚園ノ必要殊ニ痛切ナルモノアリ、今後幼稚園ハ此ノ如キ方面ニ普及發達セムコトヲ期セザルベカラズ。隨ツテ其ノ保育ノ時間ノ如キハ、早朝ヨリ夕刻ニ及ブモ亦可ナリト認ム。又幼稚園ニ入園セシムベキ幼兒ノ年齢ニ就キテハ、從來ノ規定ト同ジク三歳ヨリ、尋常小學就學ノ始期ニ達スルマデヲ原則トスルモ、特別ノ事情アル場合ニ於テハ三歳未滿ノ幼兒ヲモ入園セシメ得ルコトトセリ。之ヲ外國ノ實例ニ徴スルニ、幼稚園ニ孩兒預所ヲ附設スルモノ尠カラズ、爲メニ特別ノ事情アル家庭ニ對シ便益ヲ與フル所頗ル大ナルモノアルガ如シ云々

之によつて之を見るとき、幼稚園の目的として擧げてあることは、何れも、家庭教育といふものが何處までも重になつて行くべきもので、幼稚園は、それを裨補すべきものであると見てゐる様であります。之は當然それによからうと思ひます。けれども、その次に於て、「殊に社會生活日に複雑を加へ、一家の事情、意を子女の教養に専らにすること能はざる者漸く多からんとする今日に至りては云々」中頃の「父母共に勞働につき云々」又終りの方の「幼稚園に孩兒預所設置云々」等を通じて見ると、幼稚園の任務が、まるで職業婦人若くは貧困者のために其の重要さを認めねばならぬやうな感じがいたします。これが先に私共の意に滿たない所があるといつた所以であります。

なるほど、幼稚園が社会的に、かうした方面に大いに必要であると思ひます。けれども幼稚園の任務をそればかりとは考たくない。少くともそれが主要な任務であるとは考へたくないと思ひます。即ち學齡以前の子女の教育といふものは、家庭に於て親が之に當るといふことは、理論上當然のこととは思ひますが、両親が職業上幼兒の教育に支障ないとしても、乃至は良家の子女であつて、家庭の設備が幼稚園以上であるとしても、家庭の事情は、子女の學齡以前の教養に必ずしも完全であるとは限らないと思ひます。故に、幼稚園が家庭教育を裨補すべきものといつても、それは決して職業のため、両親共子女の教養を顧みる餘裕がないといふ場合のみに限らないのであります。子女の學齡以前の教養のため全力を擧げ得る家庭に於ても尙且つ幼稚園の必要が存在すると考へたいのであります。即ち學齡以前の子女の教養をよりよくせんためには家庭教育のみでは不充分であつて、家庭生活と學校生活との中間に幼稚園生活といふものの價値を大いに認めたいと思ふのであります。この方面のことにいささかも言及してゐないことを、私共は不満と思ふのであります。

二

抑々家庭生活から學校生活への變化は、幼兒にとつては、餘程重大な變化でなくてはなりません。この重大な變化をして出來得る限り圓滑ならしめることは、學校生活の第一歩として私共の最も意を用ひねばならぬことだと思ひます。その圓滑を缺く場合、茲に幼兒の精神的、若しくは身體的に何等かの故

障の原因が醸される場合が多いのであります。

家庭生活から學校生活への變化とは、要するに家庭生活から、團體的生活への變化を意味するものであります。之が人の社會的生活への第一歩であつて、相當意義ある、慶賀すべき事柄であると思ひます。又一面から見る時は放縱の生活から、規則的生活への變化であるともいへませう。放縱といふのは少し語弊があるかも知れませんが、幾分不規則な生活といふ方が妥當とも思ひます。兎も角も之等のことは、幼兒にとつては、誠に重大な變化であります。

然るに、ここに幼稚園生活といふものは、丁度不規則な家庭生活と、規則的な學校生活との中間にあつてその過渡期をなす好個の生活であると見ることがあります。多數等しい年齢のものゝ集合であることは學校生活のその如く、而してあまり規則的な課業のないことは家庭生活の延長の感があるなど全く、字の通りの中間の生活であります。私共の幼稚園生活の價値を認むる所は、此處なのであります。して見れば、如何に良家の子女と雖も、又家庭に於て子女教養の暇を職業上持つことの出来ない場合と雖も等しく幼稚園の必要は認めざるを得ないのであります。その上に職業婦人は子女の教養のために生活の不安を誘致する恐れなく、一舉兩徳とは、このことだと思ふのであります。

これ先に、如何に家庭教育に努力してもまだ充分といことが出来ないものがあると主張した所以であります。家庭生活では到底期待し得ない或るものが幼稚園生活に於ては容易に得らるべき性質のことが

多々あるのであります。そしてこれがやがて學校生活への變化の圓滑を期する所以であると思ふのであります。

三

本年の第二部第一學年兒童は、二十四名中家庭生活から直ちに學校生活へ這入つたものが六名あります。これを尙詳細にいへば男十二名中、三名及び女十二名中三名、都合六名となるわけであります。その他のもの十八名は、何れも一箇年若くは二箇年、夫々の幼稚園生活を經驗したものであります。

この兩者の入學當初の様子を比較すると、明に區別がつくのであります。幼稚園生活をしたものは何れも初めから元氣がよくて、晴れ／＼してゐるに反し、然らざるものは何となく不安な様子で、まるで萎縮してゐる。然るに二週間ばかり日が経つと、漸く學校の様子がわかつて來て、今まで萎縮勝ちであつたものが、急に野性を發揮して人を押しつけ、人より先んじ、利己的行動に出づるといふ様な例が屢々認められる。そして幼稚園生活をして來たものは、そこに一年なり二年なりの團體的生活といふものが、自然に他人との協調性を培養して來てゐる關係上、學校になれたがために、困惑する様な變化を認めるといふことは少ない様であります。

幼稚園生活から來たものは、言語的習練が甚だよく出來てゐるため發表方面に於て何等の慮する所を見ない。然るに家庭生活から來たものはこれが不充分であるために教師に氣づかひ朋輩に氣づかひ、黙

々として、遂に立小便といふ様な甚だ困つた結果を招致し易いのであります。

由來幼兒の自然の有様といふものは、何か感受からの刺戟に遭へば、それに對して何等かの反應があるべきであります。言換ふれば、何等かの行動に出づべきであります。何を見ても聞いても黙々としてゐるといふことは甚だ不自然のこの様に思ひます。

然るに家庭生活から直ちに學校生活に這入つたものの中にはよくかうした不自然の現象を見受けることがあります。追々學校生活になれて來次第、自然なほるものとはいひながら、いかに短時日でもさうした不自然な生活を續けしめてゐるといふことは、如何にも氣の毒であります。そこへ行くと幼稚園生活をして來たものにはさうしたものは、殆んど見ないのであります。

此の如きことは一般的事として、特殊な例外は勿論あり得るのであります。又幼稚園生活をしたものが必ずしも理想的に社會性の淘汰が出來てゐるとは限りません。けれども一般的には大要右の如きことが認められると思ひます。

四

次で少しく具體的のことについて述べて見ることにいたします。本年四月家庭生活から直ちに學校生活に這入つた男兒がおります。或月曜日に、前日の日曜日の經驗發表といふことを順次クラス全體の兒童の前に出て言語によつて發表せしめたのであります。勿論度々やつてゐることなので、多くの兒童は

平気で發表します。然るにその兒童は自己の番になつたので椅子から立つは立つたが、その兩手を机の裏面へ着けたまゝ半立ちとなり、出るかと思ふと急に「ア、イターイ」といひ出したのです。そして机上に顔をすりつけて、椅子から立つは立つてゐるが、兩手は机の裏へ入れて、恰も手指でも挿まれた恰好なのです。多くの兒童は驚きました。私もいささか驚きました。その隣席が、矢張り幼稚園生活のない兒童で、この有様にボンヤリしてゐる。然るに幼稚園から來たものは、「どうしたの？君」といつて親しく手を肩にかけて慰める。すると、「イターイ」と叫んだ兒童は「もう手が机にくつついちゃつた。お醫者様が來ても、だれが來てももうはなれない」といふ様なことを大聲獨語してゐる。この様子を見てあやしんで觀察すると、決していたくも何ともないが、ただ、立つて大勢の前で話をすることを止めるため、トツサの氣轉でかうした虚偽をしたのであります。實に馬鹿氣たことながら、かうした事實があつたのであります。

この祖母が、入學當初毎日附添ひて來てゐて、兒童を幼稚園に出さなかつたからといふことを頻りに辯解してゐました。

「兄は〇〇幼稚園で二箇年保育を受けましたが、何等得る所はなかつた様です。こんなことなら幼稚園などへやらなくても家庭で教へた方が効果があると考へましたので、二男の方は家族相談の結果で幼稚園へは出しませんでした。……家庭がそんな考へてゐるから兒童こそいい迷惑であると思ひます。一

體「教へる」とは何のことか、甚だ奇怪なことで、幼稚園の任務も何もわかつてゐないらしい。この家庭にこの子ありといふことが、いはれると思ひます。

虚偽といへば、かういふ例もあります。矢張り幼稚園生活といふものが、面白くないといふ両親の意見の下に、家庭で嚴格にしつけをしたと稱する一男兒が、矢張り入學當初、學校より書付けを家庭へ届けるため、持ち歸らしめたのであります。ところが途中紛失してしまつたのです。翌日返信を何れの兒童も提出するのに自分丈けないので、はじめて紛失を氣づき、私の所へ來て、次のやうにいふのです。

「先生、きのふ、電車の中でどつかの人が來て、僕のもつてゐた書付を見せろといふから、見せたらその人がどつかへもつていつてしまひました。」

甚だ不思議に思つて色々さぐつて見ると、全くそれは虚偽で紛失したことがわかつたのです。家庭のしつけ方はどうかと思つて色々調べて見ると、父親が某校の漢文の教師で非常な嚴格な教育を施してゐることがわかつたのであります。即ち全く幼兒の世界を無視した教育といつても過言でない様なことが、遂ひには虚偽をなさしむべく仕向けて來たものだと私共は觀察してゐます。よく家庭とも談合して家庭を教育してやつたのであります。これが、最初幼稚園といふものの保育を排し、家庭教育を大いに主張してゐたのだから驚くより外ないと思ふのであります。

尙一女兒について申しますと、これは入學前無理に文字の読み書き、抽象數の取扱といふものを家庭

に於て両親が無理に教へてゐたものらしいのです。長女のことだから入學前一、二年の間専心そんなことにとつとめたいのです。ために入學當初文章の讀解文字による思想の記述など、異常な程度まで進んでゐました。然るに、何度も何度も教へても、自己の學ぶべき場所がわからないのです。學校へ來ても教場の位置がとんと見當がつかぬ。整列の時前から三人目といふことを身長順で定めておいても、どうしても自分の場所の見當がつかないのです。凡そ一ヶ月以上もそんな状態であつたのですが、これらは、家庭生活から學校生活へ直ちに這入つた兒童について特殊なものゝの實狀を正に代表したものだといふことが出來ます。入學期異常な進歩を示すことそれが決して悪いといふわけではない。又整列する順がいつまでもわからなくても、新入兒童のため著しく差支があるといふのではありません。一方に於て異常の進歩を見るのに、一方に甚だしい缺陷があるといふ偏した家庭教育の弊を排したいのであります。

五

之を要するに幼稚園生活といふものの學校生活に對する精神的効果といふものは、實に重大な意義を有つものだと思ひます。然るに世には、小學校教育の實際に多年携はつてゐながら、幼稚園から入學した兒童より家庭から來た兒童の方がよいといふ様な、全く幼稚園生活を否定する様な言辭を弄することは、誠にいはれないことだと思ひます。勿論幼稚園の質にもよることであらうとは思ひますが、一般的には甚だいはれない言辭であります。少くとも、家庭生活と學校生活との過渡期を幼稚園生活によることは最も合理的に幼兒の生活の發展を期することが出来る所以だと信ずるのであります。(丁)

保育上に於ける幼児の自由意志

目白幼稚園 和田 實

入園以來、未だ嘗て遊戯せぬ子供とか、入園以來、未だ嘗て返事をせぬ子供とか云ふものが、諸所の幼稚園にあると云ふことである。斯る子供を如何に取扱ふ可きかと云ふことは、相當考慮を要する問題ではあるまいか。此間も或地方の幼稚園から、參觀に來られた方の話に因ると、今年七才の男兒、來年は學校で、入園以來一年と三ヶ月ばかりになるが、未だ嘗て唱歌を唱はない。色々とすかしても、獎勵しても、一向に効力がない。

然るに其子供も、自分の家では、可なり大きな聲で唱ひますれば、踊りもするそうである。唯、幼稚園に來たが最期、何うしても唱はないと云ふことである。誠に厄介なことである。前の遊戯せぬ

子供、返事せぬ子供も、矢張り此唱歌せぬ子供と同じ様に、自分の家では、相當に唱歌し、踊舞し、談笑し、呼應するのではないかと思ふ。若し、果してそうとしたら、是等の子供を如何に取扱ふ可きかは、一應、保姆の職掌上からも、研究して置く可きではないでせうか。

人に因ると、遊戯したり、唱歌したりすることは、幼児の遊戯意識内の事であるから、幼兒自身に之を爲さんとする意志なき時に、之を強ひるのは壓制である。凡ての遊戯は自由を其屬性としなければならぬ。話しの聞きたいものだけに話し、唱ひたいものだけで唱ひ、踊りたいものだけが踊る可きではないかと云ふ人がある。此主義の人の

幼稚園では、先づ幼稚園内を二つに分けて、遊園又は遊戯室を自由遊戯場とし、其他の室を以て特種の作業場として、自由遊戯場から、畫を描きたい人、唱ひたい人、積木したい人、粘土したい人、お話聞きたい人等を別々に、何人かづゝ募集し、此募集に應じた子供だけを、連れ行きて、其作業をすると云ふ様にして居る。一見誠に理想的の様に見える。が併し、是が果して適當な行り方であらうか。此行り方で行つたらば、夫れこそ、入園以來、唱歌せぬ子供、遊戯せぬ子供、積木せぬ子供、畫き方せぬ子供、折り紙せぬ子供、等々の子供が簇々と輩出することであらうと思ふ。或は、簇々と夫れ等の子供が輩出するのが、よいのかも知れぬ。夫れでこそ、始めて、個性の眞の現はれかも知れぬ。が併し、吾人には少し受け取れぬところがある。

成程、自由は遊戯の屬性の一に違ひない。嫌ひ

なものを強ゆるのは、決して自由の發達を目標として居る現在教育の理想ではないかも知れぬ。併しながら、右述ぶる様な組織方法の下に生じて來る特種の子供が、果して、個性の本質から現はれた偏向であらうか。其頑強な執拗な意地張りは、果して、其幼兒の眞體を表はして居るのであらうか。若し果して其子供が、唱歌の出來ぬ子供、遊戯の嫌ひな子供であるならば、止むを得ないが、然もなく、唯一時の意地づくで、出鼻を折られたか、機を逸したかして、衆童の仲間に入り悪くして、其儘になつたとか、或は一時の恐怖、羞恥、因循、等が保姆の取扱ひの不適當な爲めに一層、出悪いものにされたりした爲めから來て居る等のことはあるまいか。是は餘程、考查を要する事件であらうと思ふ。万一にも、眞に幼兒の個性の表現でなくて、一時の執拗な意志の傾きから來たものであるとしたならば、夫れ等の幼兒に對する保

育者の誘導方法は大に考究を要するに相違ない。

吾人は從來の經驗から考へて、先づ、大體は、幼兒本來の個性の缺陷から來るのではなくて、多くは何等かの一時的原因に依る一時的偏向であると信するものである。従つて、右様の子供のあることを聞くと、吾人は、直に、もつと深く調査しもつと能く愛撫し、もつと、努力して誘導す可きことを勸告して居る。私が目白幼稚園を始めから、本年で十二年であるが、其間未だ嘗て斯様な執拗な子供に出會つたことがない。夫れは、入園當時、暫らくの間は遊戯せぬ子供も、唱歌も返事もせぬ子供も、随分ある。尤も年々其數を減じては來るが、本年なども、未だに二三人特に偏向の著るしいのを見掛けては居るが、併し、例年の經驗に因ると、早きは一ヶ月、遅くも一學期中には皆通例の子供となるのが、きまりの様である。未だ嘗て在園中、返事しない子供や遊戯しな

い子供、唱歌しない子供と云ふのに出會つたことがない。或は、私の幼稚園に來る子供は、幸に皆普通の子供で、斯る特種の子供がないのかも知れないが、併し、私には何んだか當然のこの様に思はれてならぬ。在園中、數年の間も、唱歌しないとか遊戯しないとか云ふ様な子供はある可き筈がない様に思はれてならないのである。

何故と云ふに、凡ての遊戯と云ふものは、人間の本能に基くところの自發活動であつて、決して爲すには居られぬ筈のものである。食ふと云ふことは人間の本能であつて、食はずに居られぬが人間の本性である。是と同様に遊ぶと云ふことは、人間の本能の一つと見る可きである。此遊戯をしない子供と云ふものを、吾人は考へることは出来ないからである。夫れは、食物にも好惡がある。嫌ひなものを無理に食べさせられぬと同様に、等しく遊戯にも種類がある。或種の遊戯を子供が嫌

つたからとて之を強ゆる必要はあるまいと云へば云へるでせう。けれども、之も餘程考慮を要する問題である。子供の食物の好惡位、あてにならぬものはない。食はず嫌ひもあれば其時々の一時的好惡もある。是と同様に凡べての遊戯に於ても、食はず嫌ひもあるし、一時の好惡もある。其時の天氣具合、對機嫌次第、如何様にも變ずるものがある。之を取扱ひ難いからとて放任したならば、我儘は固定して遂には、個性を形作るに至るであらう。吾人の最も怖れるところは是である。

好惡の多い人程、不幸な人はない。子供を養育するにしても、教育するにしても、成る可く好惡の少い人にしなければならぬことは、云ふ迄もないでせう。又、人は雜食動物で、魚も食べれば獸肉も食ふ。穀類豆類も食べれば野菜、海草、木の芽、草の葉迄、食べる様に出來て居る。好惡の少いのが當然である。遊戯活動に於ても同様に云ひ

得ないだらうか。多様の食物を同化することに因つて、複雑な身體を構造する諸原素を攝取するところが出来る様に、多種多様の遊戯に因つて、多方面の活動を遂げることが出来、従つて、多方面の發達が出来るとすれば、成る可く、多くの遊戯を爲せることが、圓滿な發達を遂げさせる第一歩に相違ない。而して、食物に好惡を感じさせない様に育てることが、必ずしも、難しいことでないと同様に、色々の遊戯に、多方面に遊戯活動を營ませることも、決して、然したる困難な仕事ではないのである。此處の道理を考へないで、唯單に、遊戯は自由なものである。嫌ひなものを強ゆるは悪い。いやなら、よすが好い。爲度くないものは來るに及ばぬ。と云ふ行り方は、餘りに、幼兒を成人扱ひにするものではあるまいか。斯くては、嫌ひでもないものに、嫌ひを教へ、好き嫌ひの少なかる可き筈の子供に、段々と好き嫌ひを多くさ

せる傾向を持たせるもので、頗る、まづい教育の方法と云はねばならぬ。理想の幼稚園は果して斯様のものであらうか。私は嘗つて御茶の水に在任して居つた時に、保育室を子供の組の名に因つて別けず、仕事に因つて別けて、お話の室、手工の室、唱歌の室、觀察の室、遊戯の室と云ふ様にして見様と思つたことがあつた。けれども、是とも幼児をして、常にお話の室に居らしめやうとか、手工の好きな子供に手工ばかり行らせやうとか云ふ意味ではなかつたので、随時に、自由に、子供を仕事に誘導するに便利な爲めにしやうと思つた迄である。併し、此計畫は色々の不都合があつて、實現せず済んで仕舞つたが、今では却つて、其様な計畫は一種の空想で、實際には、大した効果はない様に思はれてならぬ。矢張、普通の行き方で一向差支ない様に思ふ。行き方は普通の行きり方で、差支はないけれども、幼児の自由意志

と間違つた我儘と執拗とは判然と區別して其取扱ひをせねばならぬ。勿論、凡べての遊戯は、幼児の自由意志で行らなければならぬ。然りとて、一齊に、遊戯しやうとする際に、勝手に仲間はずれになることを許すと云ふことは、頗る面白くない。是は遊戯上の自由意志を尊重する所以ではなくて却つて、幼児の我儘勝手を誘導し、募らせる様なものである。食時の時間には一齊に食卓に就く可きである。健康の變調で、今日は普通の食事が出来ないと云ふならば、兎も角、然らざる限りは、一齊に食卓に並ぶ可きではないか。遊戯や仕事にしても、此通りではあるまいか。尤も、大きい人々と共に、一齊に食卓に就き兼ねる程小さい子供が、普通の食卓に就くことなしに、濟ます様に、幼稚園でも、一齊に、外の子供と共に仲間入りの出来ない程幼弱な幼児に對しては、無論、除外例を置かねばならぬ。吾々も、是等の子供迄も、決

して無理に一所に仕やうと云ふのではない。又、是等の子供を除外したからとて、夫れが決して、他の子供の我儘を誘導したり、募らせる様なことはない。何となれば、是等幼弱な子供は、「赤ちやん」の部類に屬するものとして、一般の子供の一段低い位置に置いて、自分等は既に、其赤ちやんの域を脱して、子供の範圍迄に進んだものとして大に優越感を持つて居るものであるからである。私の幼稚園では、入園當初の仲間外れの子供をも段々に此筆法で待遇して居るので、優越感の鋭い子供程、わけなく、仲間入りして來る様である。容易に仲間入りの出來ない子供に對しても、決して、あせつたり、無理強いをしたりなどはしない勿論、其執拗な意地張りなどを苦にする様な様子などを見せ付ける様なことはしない。唯、何時迄も、赤ちやんとして特に愛撫し、特赦し、除外することを、明瞭にして置く。斯くすることに因つ

て、子供は何時なりとも、意の赴く儘に、衆童の仲間入りが出来る。仲間入りすることが、自己の優越感を満足させることであつて、降参や、強い執拗な意地張りの敗北ではないので、何のこだはりもなく、進歩し、發達し來ることが出来る。併し、此處の呼吸に、取扱ふ保母の熟練と、大きな廣い光の見えた達觀振りとが、成功をさせるので未熟な先の見えない經驗の足りない人々には、一寸、不安に感ぜられるかも知れないが、併し何の心配もなく、何時の間にか、成功するものであるから、思切つて自由にす可きである。唯、自由にす可きであるが、放任す可きではない。何時も機會ある毎に、誘導することを忘れてはならぬ。

斯くしても、何うしても成功しないものがあらうか。吾々の經驗の範圍では、そんなに迄、頑強な執拗なものに出會つたことはないけれども、若し、萬一、あつたとしたら、次には其仕事の内容

の程度如何を調べて其子供の發達程度に副はしむ可く、考慮を費せばよいと思ふ。子供には食慾がある。子供の發達に副ふたる程度の、消化し易く同化し易き食物で、然も、美味であり、滋養のあるものであつたら、食はぬと云ふ子供のある筈がないと思ふが、何んなものであらう。

前の在園中唱歌しない子供、遊戯しない子供と云ふのも、保姆の取扱の不適當な爲めか、幼稚園の組織の不適當な爲めかにつて、幼兒をして、自分の自由意志を働かず機會を逸しさせて居るのではないだらうか。之を其成り行に任かせて、不適當な取扱をすること、除外例的な取扱をすることが、決して、幼兒の自由意志を重ずる所以とは云ひ得ぬ筈だと思ふ。是は、幼兒の自由意志を尊重し、其發動を待つ様に見えて、實は、幼兒の自由意志を縛りつけて、其發動を止めて居る様なものである。

故に、吾々は云つて居る。すなほに進行して行かぬ子供があつたら、進んで、もつとく、愛撫せよ、そして、今一層、進み來ぬ原因を調べよ、障害を取り除けてやれ、そして、御馳走を見せ付けてやれ、何時でも食指の行くに任せて取り得る様にしてやれと。斯くしても、すなほに進歩して來ないと云ふものは、考へられぬことである。話は違ふが、目白幼稚園の創設勿々に、一人の夫れは夫れは頑強に腕白な、我儘な、やんちやんな女の子の入園した事があつた。家庭の人は、何うにも手がつけられず困つて居つた。夫れが入園して一ヶ月程すると、家庭の人が、子供の様子の少し變つたことに、氣が付いた。一學期が濟み、二學期の半ばに達する頃には、全然、子供の様子が變つた。家庭の人が驚いた程、すなほになつた。頑強なやんちやんは跡方もなくなつた。食物の好惡などは、前には夫れは夫れは甚だしかつたものが

全然なくなつた。其變り方の甚だしいには近所の人
が驚いた程であつた。是なども子供の自由意志
で、我儘や、やんちゃんであつたのではないので
一に保育者の取扱の悪い爲めであつた。幸に早く
幼稚園に出した爲めに、之を矯正することが出来
たので、今年は或女學校を非常な優秀な成績で卒
業して居る。子供の自由を尊重すると云ふことは
ともすれば謬りを生ずる。間違つた自由を尊重す
ることは決して子供の自由意志を發達させる所
ではない。(丁)

謹啓

春暖之餘益々御清穆賀し奉ります

借て私事近事年と共に身体頭腦共に衰退し時に聴覺著しく鈍く
なりまして到底日々の激務に堪へ難く相成りました其上老母儀
已に十八年間の宿痾にて身體不自由で居ましたのが昨年來病勢
頓に募りまして全く不隨となりました此母の爲にも是非最後の
奉養をなし慰め度彼は苦心して居りました處今回徳風少年會に
お引受け仕て戴く事にお願ひ致しまして已に各手續まで全部終
了致しまして私も園長を辭退致した次第で御座います
徳風少年會は宗教的思想を以つて少年の教化を目的とせられ創

立已に十年間銳意斯業に御盡力されて居ます會の主事は實子小
學校長宇野喜八郎先生で經營者は原庫次郎氏其他四名の諸氏で
ありまして經費の點に付きましては何等憂慮する事なく教育の
點に於いては其宗教的熱誠と相俟つて將來永久の良き發達を期
待されるものと堅く信じて疑ひません私は斯くも良き後繼者に
お引受け仕て戴いた事を喜び同時に當福岡幼稚園の將來を祝福
いたしました茲に昭和二年三月三十一日創立二十五周年卒業生
九百六十五人現在園児八十五名を後にして引退いたしました
余命を病母の枕頭に送る事にいたしました

願みすれば私が幼稚園保母生活に入りまして茲に三十七年間
指を折りては只自ら驚くばかりで御座居ます私は性來余才加ふ
るに何等榮養もなく只一意専心子供の爲めに努めたるばかりで
あります何等取る所もなきに斯く長き年月の間に大なる過もな
く園の經績と斯業に従事爲し得ましたのは偏に皆々様の御指導
と御援助との賜のに外ならぬと感銘の至り茲に永年の御厚情を
厚く感謝致します

尙從來の通り御厚誼を賜らむ事を伏て希ひ上奉ります

先は引退に際しまして從來の御厚誼を感謝し旁退職御挨拶まで

敬具

昭和二年四月三日

元私立福岡幼稚園園長

荻野ヒサ

自宅福岡市大名町九八ノ三

日本幼稚園協會御中

幼稚園の懷舊を辿りて (二)

望月くの子

二 大阪最初の保育

私の耳に聴き傳へて居たことのみを記しますから誤りと足らない處は何卒どなたでも御遠慮なく御訂正御補足下さいませ。

明治十一年六月大阪府から東京女子師範學校の幼稚園保姆練習科へ選抜派遣されました木村末、氏原銀子の兩名は、(當時東京女師の校長は中村敬宇先生、幼稚園監事は關信之先生、保姆は近藤濱子、豊田夫雄子、松野クララの三先生であつたと記憶致します)一生懸命に勉強して居られました。が、明治十一年一月木村氏のみ其事業を終へ、氏原氏は妊娠の爲半途退學して歸阪されました。しかし、氏原氏は木村氏と共に大阪最初の幼稚園の

取調べを命ぜられましたので、明治十二年五月大阪府立模範幼稚園(大阪中の島常安町)の開園式を舉げられました。當時幼兒數四十八名、之を二組に分けて木村、氏原兩氏が擔當保育せられました。(木村氏は一年にて退職)模範幼稚園では保姆の養成(六ヶ月)もしました。當時の保育は

會集 遊戲(自由遊と室外でする共同遊戲)

積木 圖畫(自由畫、筋引きの石盤畫)

文字 板排べ 箸排べ 環排べ(別々に用ふ)

以上午前

午後は手技で、土産をつくらせ持ち歸らすことになつてゐました。

その頃第二恩物も用ひました。説明したりコマ

にして廻したりしたのです。自然接觸の爲には幼
兒一人に半疊敷位の畠を作らせいろ／＼植ゑまし
た。掛圖は修身話（ワシントン櫻の話等）庶物話
のもありました。文部省から衣食住の糧を出版さ
れまして皆勤者の賞與にしました。遊戯唱歌は前
號氏原氏記載の外民草、風車、冬燕居と花見の駒、
造花の妙、河水等でありました。

花見の駒(1)かすみたる柳けぶりてひばりなきすぐ
草花さくこの時はたゞにすぎさじ飼ひ置ける甲
斐の黒駒引きいでゝいそぎくらおけ朝つゆをひ
づめにかけて行く方のつゞく梢に香をとめてあ
はだつ雲は櫻花さきも残らず

(2)ちりもまた始めぬほどのみさかりにめでたき時
をいかなれば空とぶ雁はかへり見る心もなくて
うちつれてかへりゆくらむ我土地はこの花の香
を袖にとめたもとにしめて木の下にいざありた
ちて諸共に心ゆくまで遊びくらさむ。

(3)夕ばえの花にわかるゝ家づとはかたみにつめる
すみれさわらび

造花の妙 天にます妙なる神のめてたさはいふよ
しもなしもえいづる草ものどかに花鳥の色香あ
かしき春くれてたちばな香るのきの月入りはて
もせず山の端の松間の紅葉そめはへて雪おもげ
なるなよ竹に雀もむれて遊ぶなりかゝる恵みの
盡させぬはわが世のともものさちにぞありける。

河水(1)かは水のよどみしもせて音たえず流るるが
ごと年月はすぎゆくものかわらわべのたのしき
けふはきのふにて翁がゆめと時の間に移りかは
りて。

(2)たまくしげふたゝびとだに歸りこぬものなしあ
れはいでやなれ學びの道に怠らずゆめ怠らずむ
かふ心の駒にむちうちてたづなゆるべず進みゆ
かなむ

以上の歌は明治十五年頃迄其後は主として三

冊よりなりし我國最初の小學唱歌集を用ひま

した。(かをれにほへそのふのさくらより始まる。)

従つて曲は西洋風になり、歌も現代語に大方はかはつて參りました。

以上の保育は大凡明治廿六年春の頃まで續いたと思ひます。

明治十三年五月頃東區内有志者の主唱で愛珠幼稚園が設立されました。これは大阪に於ける大阪市の公立幼稚園の第一と思ひます。

明治十四年十月十三日、府立模範幼稚園の擴張に伴ひまして、氏原氏を師として西區江戸堀幼稚園に四十餘年を勤められた膳たけ子と、小谷春枝が見習ひ保姆となられました。(膳氏のことは已に世に隠れなき我國の保育功勞者でありますが、小谷氏亦膳氏を助けて今日あらしめた隠れた功勞者であります) 氏原氏の月給は十五圓膳氏は五圓で

あつたと聞いて居ります。

明治十六年七月十五日、模範幼稚園は經濟の都合で廢園の憂き目を見ることになりました。實に残念なことですので、生徒の父兄中有志者十名の發起で、二百圓で模範幼稚園の器具萬端を買収しました。十一月廿三日私立中洲幼稚園を設立されました。家屋は無償であつたと思ひます。其時の保姆は氏原氏と膳氏とでありました。幼兒の保育料廿五錢(月)五十人を收容して居りましたので、収入僅かに十二圓五十錢、兩氏は殆ど無給で働いて居られました。

(氏原氏が東京で求め來られました一生懸命の額は廢園の當時入札で、愛珠幼稚園の手に落ちました。今も猶保管されてあることゝ存ます。)

明治十七年二月時の文部大臣は大木喬任氏と思ひますが、結構な法令を御出し下さいました。其

大意は六歳未満の子供は、小學校に入るゝことが出来ないといふことでした。夫迄幼い子供で小學校へ入つて居つたものが學ぶ處が無くなりましたので、自然幼稚園の必要を生じ、幼兒教育勃興の論を拓くことになりました。

(明治十二年頃鹿児島縣に幼稚園が出来ましたこれが模範幼稚園に次ぐ我國での第二の幼稚園だと思ひます)

されば各府縣で幼稚園の設立を思ひ立ち、大阪の幼稚園では、參觀人の絶え間がありませんでした。

明治十七年公立北區幼稚園設立の議決せられ、私立幼稚園を全部買収せられました爲に、模範幼稚園廢園の時の二百圓は有志者に返戻しましたが場所は従前の處でありました。

北區幼稚園では、保姆の養成を致しまして卒業の上は、北區各小學校幼稚科の保姆となりました

十八年三月西區に公立幼稚園を設立され、氏原膳の姉妹は始めて分れ、膳氏は西區幼稚園に勤務此處でも保姆の養成をなさいました。

(北區幼稚園は若松町に、西區幼稚園は江戸堀南通り四丁目に新築されました。)

十九年五月には高臺幼稚園同九月には、浪華幼稚園等大阪市内に幼稚園設立の氣運大に起り、大概小學校の附設で、幼稚科又は幼稚保育科と云ふたと思ひます。府立女子師範學校附屬幼稚園もたしか十八年四月頃中ノ島に再設されたと存じます(大阪の方々から其邊のことを御訂正御記載を願ひ上げます)

愛珠幼稚園では、東京女子實習科出身の長竹くに子氏熱心にあつとめなさいましたが、十八年東京に歸られ、其後春田たか子、伏見柳子氏を経て現今の稻葉うめ子氏に到つたと存じます。三十三年四月一日現今の園舎新築福羽美靜氏作の歌を添

へて、當時の三市聯合會雜誌に記されてゐます。

我國第一壯觀の園舎だつたと存じます。

南區御澤幼稚園設立の年月は忘れましたが、保姆又は園長として骨を折つて下さつた方は、小笠原松枝、大村和子、奥野うさ、大倉はな、小山秀子を経て、再び田村好子(大倉氏改姓名)氏になつて今回退職されました。

船場幼稚園も設立の年を忘れましたが、大江すみ子、小山駒江、今田しん、八田さた氏等を経て現今の金谷ます子氏になつて、久しく御盡力下つてゐます。現今の鐵筋の園舎と舊時を比べれば隔世の感があります。

(其他の園のことはよく覚えてませんから、間違ひが多いと存ますので省略いたします。どうぞ夫れく御記し下さる)

明治廿六年三月、西區も北區も區立を廢し、聯合町の負擔となりました。中にも西區は經費縮少

九人の保姆は僅かに一人となり、其一人の膳氏は月給十三圓でした。幼稚園舎は高等小學校に取られた爲、戸長役場の一室で十七年間辛抱なさいました。幼稚園窟といはれてゐました。四十二年に新築されました。

(三十四年の頃と思ひます、私が兵庫幼稚園を去らんとして後任に困り、大阪に行き膳氏にあひ、餘りのあはれに十三圓より廿七圓の方が増してすし、園舎も少しはよろしいと存じます) 御轉任になつては如何ですと申した時、膳氏は、私は轉ずることはイヤです。辛抱して一旗挙げますと云はれ、大に赤面をしたことを思ひ出し、今以て面目ないですがざんげ致します。其時私は家族に制肘されぬ氏を羨みました) 北區の方は西天満小學校の中に轉じました。

(氏原氏の經歷書を見るに、其時西天満の幼稚園設立の爲、町會議員十五名の家へ一々頭を下

げて頼みに廻つた時の苦しさを士族出の氏は、痛切に感ぜられた様です。しかし其爲先きに私立てであつた幼稚園が公立になつたことを喜び、其恩義を感じ、これが即前の模範園の命脈なのを思ひ、利己の爲他に轉ずるを思はず、減俸を快諾されたので、區長も感心されたと記されてあります。因に其頃の氏原氏の生計は實に苦しく一家を負擔し、長病の祖母を看護し（祖父の後妻）見送り困窮を極められ、膳氏は自分の収入の半を割いて助けられたことあり、困苦の中に節を守り、愛兒と愛妹を育てられ、膳氏亦義弟教育の爲に盡くされた斗りか、終生物質に拘泥せず、精神的に斯學に盡されたことは實に揃ひも揃ふた姉妹と敬服してゐます）

一方廿六年四月、他の區に於ては小學校の附屬の幼稚科は續々獨立の幼稚園となつたと思ひます。終りに

大阪市保育界の爲御盡力下さつた方の中で、特筆すべきは、久しく府立女子師範學校長であつた大村芳樹先生であります。此方によつて三市聯合保育會は生まれ、育てられ、保姆の待遇は向上せられ、眞に大阪市幼稚園の父であります。只今は静岡市外用宗に御住ひになつて、御隱退の身も猶教育の爲に御盡くし下さつて居ります由に承知して居ります。

明治三十一二年後の事は、三市聯合保育會雜誌に散見して居りますので省略いたします。

雜草 (二)

女高師 大 岩 金

4、水生のもの

水生のものと申しましても濕地に自生するものも合せて述べやうと思ひます。順序は思ひ出したまゝを次々に記します。

イ、たぬきも

莖は繊細で長く葉も細くて細裂し葉上には捕蟲囊があります。此の藻の中には種々の種類がありますが何れも捕蟲囊を持つて居りまして水中の小動物を捕食するので有名な植物であります。濕地或は池、澤、水田等で採集して來ればよいのであります。是を一定の容器の中で培養致しますのは大變困難な事ださうであります。植物の大家の方方もなか／＼成功せぬと申されて居ります。然し

小容器に入れて小動物を給與して捕蟲の状態を見るといふことも興味のある事であらうと思ひます。小動物と申しますのは「ミジンコ」のやうなもので宜しいさうであります。此の「ミジンコ」を得ます方法と致しましては馬糞を一定の容器に入れて水を盛つて置きますと澤山に發生するさうであります。

ロ、まつも

水中に沈んで居ります。細長い莖で節々に多數の葉が輪生して居ります。夏になりますと金魚屋の店頭で硝子の器に「ランチュウ」などに配されて艶麗な金魚の價値を高めるには是非なくてはならぬものであります。金魚屋で申します所謂「さんざ

よも」はこの「まつも」の事であるさうてあります。
今一つ序に申し上げたいのはこの藻は金魚に産卵させる種付け用の水草としては最もよいものださうであります。金魚は此の藻に喜んで産卵するのであります。

ハ、きんぎよも

前記の金魚屋に使用する藻とは異なつたものであります。圓い莖は長く延びまして葉を輪生し絲狀で羽毛の様に裂けて居ります。

一般に前記の二種はよく誤り傳へられて居るやうでありますから特に蛇足を勞しました次第であります。尙水生植物と魚類との關係は密接なものでありまして魚類の生活に重要な酸素を與へる役をするので金魚を飼ふ時等には飾りとして使ふのみならず必ず此の様な水草を投じておく必要があるやうてあります。

ニ、かやつりぐさ

「ゐ」の生ずるやうな路傍濕地等に自生して居ります。莖がよく割れる性質を持つてゐる所からこの莖丈を取つて小兒二人で此の莖の兩端を互に割るのでありますがその割り方は一方は莖を垂直に他の一方は垂平即ち兩端の割目は直角になる様に靜かに割つて行きまして端を少し残しますと丁度升形に割る事が出来るものであります。ところが互が垂直或は垂平に割ります時は莖は眞半分になつてしまふ理であります。或は又一片が太く他の一片が細いものになることもありますので大變喜んで二人で遊ぶものであります。

この水草は夏の日の水邊に野生してゐるのも野趣があつて宜しいやうてあります。そして「かやつりぐさ」の中にも色々の種類がありますが「てんつき」といふ種類は水邊に植ゑて捨て難いものであります。花莖の高さは一尺位で花は莖の頂に生じます。卵形の穂は大きくて愛らしいものであ

ります。

尙同じ科の中に「まつばら」といふ水濕の多い田中等に簇生してゐる多年生で丈が僅に一寸位で葉が絲狀で莖の頂に小さな卵狀の橢圓形をした穂を出す誠に氣持のよい青々としたものもあります。

ホ、ひし

「まつばら」や「さんぎよも」等の自生して居ります場所で採集することが出来ず、しかし水の深い場所ではこれの根を採集することは一寸困難な仕事であります。即ち水面に多數の葉を繖出し、そして水中莖は長くなつてゐるのであります。秋になりますと相當大形の所謂「ひし」の實が出来ます。それを採集して泥に埋めて置きますれば立派な植物が出来ぬこともありませぬ。

又この實は生のまゝでも堅い皮を破つて中の白色の肉を食べることが出来ます。一寸風味のよいもので私の小供の時には喜んで食べたものであり

ます。いや大人になつても結構であります。何の根據もないことでありますが、ピタミンが澤山含まれては居らぬかと思はれるやうな氣が致します。又煮て食べましても結構であります。唯だ皮が堅いのと棘があるので一寸食べます時に困ります。

食べることはかり申しましたが此の水面に浮いた葉は殆ど三角形をして居りまして雅致があるもののやうに思ひます「ひめびし」といふのは小形でありまして是も泉水等に野趣を加へるには結構であらう考へられます。特にこの「ひし」の葉柄に具はる膨脹部を「ヒゴヒ」等がバクリバクリと音をたて、食べやうとする様等は又格別の情味のあるものゝやうであります。

へ、ひつじぐさ

「はす」等と同科のものでありまして又例の園藝植物として相當重きをなしてゐる水蓮もこの科の

ものであります。何と申しましても栽培された水蓮のやうに色の變化それに加へて香の高いもの等に比較しますのは雑草の價値を無視した申分であらうと私は思ふのであります。

それからこの「ひつじぐさ」と申す名稱の起りてあります。此の植物の花は丁度末の刻ヒツヂ即ち午後二時頃になりますと花が閉ぢる習性がありますため、その名を得たものださうであります。又この名は一般に水蓮にも用ひられることがあります。若しち疑ひの方は一度採集して實驗なさいますならばその眞偽が明瞭にならうと思ひます。

自生してゐる場所は沼澤等でありまして東京近郊にもよく見る多年生の植物であります。葉は徑三四寸の馬蹄形をして居りまして基脚に深い欠刻があります。濃綠色をして水面に浮び七八月頃になりますとその間に少し頭をもちあげて白い可愛らしい花を開くのであります。

同じくひつじぐさ科の植物で「かはほね」といふ植物があります。これも沼とか河流等の水の淺い場所に「じゅんさい」等と共に愛すべき野生水好植物であります。

又同科でありまして「ちにはす」といふ名を聞いても恐ろしさうな植物があります。ひつじぐさ科のちにはすでありますからさう恐れる程のものであります。まゝいが葉脈は凸起し全體に刺を有し葉の形は楕形でその上縁があつて大さも直徑半間といふ偉大さであります。花もなかなかいかめしい形をした刺だらけのものであります。

ト、みづあふひ

廢田水澤等に自生して居りますが時々栽培されてゐるのを見受けることもあります。花も葉も共に觀賞する價値のあるものであります。花は夏から秋の候にかけて濃い碧色又は白色の愛らしい花を開きます。葉は圓い心臟形であります。

チ、うきくさ

この科にも種々あります。「ひんじも」等は面白い形で繁殖するものであります。「うきくさ」を繁殖させるには種類に依りますと池一面に益に繁茂して反つて困る結果になる事もある様でありますから注意を要することと思ひます。

その他の科、おもだか科、いばらも科、みつわらび科、ゆきのした科（「ねこのめさう」の密生してゐるもの）其の外薺苔等の植物に培養して觀賞用として其の價値が充分であると認められるものが沼澤に満ちて居る様でありますから皆様も風光駘蕩百花の春たる昨今を利用なさいまして一度郊外の沼澤に杖を引かれお氣に召した植物を採集持參の上試作なさいますことをお勧め致します。唯採集の時にその植物の自生してゐた場所の状況をよくおとり調べの上一先づ自生の場所となるべく同様の状態で試作なさいますことを望みます。



ぬりえ

(シャボン玉)



童話 雷様の太鼓

内山 憲 堂

高い高い黒雲の上に、お母さんの雷様と、子供の雷様が住んでゐました、子供の雷さまはライちゃんと言ふお名前、ハイカラなお名前でせう。

お母さんが「今日はお天気がいいからお洗濯でもしませう」と云つて、たらひに水を入れて、じやぶじやぶ じやぶ〜おじやぶのじやぶ じやぶじやぶ じやぶじやぶ おじやぶのじやぶじやぶと おせんたくをしました。

ライちゃんは家の前へ出て雲の切れ目から下をのぞいて見ました。

「あや、よく見えるな、やあ、幼稚園だな、たくさんあそんでら、百人も居るかな」

お母さんが心配をして、

「ライちゃんや、あぶないよ、あまり遠くの方へ行くと雲の上からぶつこちますよ」

「母さん、大丈夫だよ、遠くへ行かないから」

「やあ面白いな、唱歌を歌つてゐら、ながなか上手だな」

「あや、面白いぞ今度は遊戯だな、みんな踊つてゐら、赤いべし着て傘さして」

あまり面白かつたので思はず雲の上で踊り出しました。しますと、どうした拍子か足を踏み外して、そのまゝ雲の上から、眞さかさまにズドンと落ちました。落ちたところは大きなお池のまん中でしたから別にけがはいたしませんでした。

けれどもライちゃんは泳げないんですもの、お

水の中でアツプアツプしながら「大變だ、大變だ、たすけてくれ」と云ひながら、お手々をぼちやぼちやしてゐました。秋のはじめてするものお水も冷たくなつてゐます。

××× ××× ×××

そうしますと太郎さんが幼稚園から歸つて來ました、おべんたうを肩の處からスーと斜にかけて、左の手に、お草履袋を持つて「今日は幼稚園で面白かつたな、これからお家へ歸つて、母さんに、おやつをいただいて、うまいな、まてよ今日のおやつは、ミルクキヤラメルかな、おまんじうかしら」と云ひながら歸つて來ますと林のあちらのお池の方から、アツプアツプ、ポチャポチャポチャと云ふ音が聞えて來ます、「なんだらうな、アツプアツプ、ポチャポチャポチャ、だつて」大急ぎでお池へ來て見ますと、まあ、雷様の子供がお池の

中におつちて、アツプアツプ してゐます。

「きのどくだな、よし、僕たすけてやらう。オーイ、今たすけてあげるよ……まてよ、さうださうだ帯をほどいて、帯をキリキリキリとほどきましたその先に小さな石をグツと結びつけて「イイカイ帯をなげるから帯のはしをつかむんだよ、ソーラヒイ フウの ミツ」

ポイとなげますと、お池の中程へポチャンとおちました、ライちゃんも帯の端をギューとにぎりました。「引つばるよ、いーかい、しつかりにぎつていなさやだめだよ、いーかい ヒイのフウのミツ、」

ハやれ引け そら引

えんやらさ

コラ えんやら えんやら

えんやらさ

やれ引けそら引け

えんやらさ コラえんやら

えんやら えんやらさ

と引つばりますと、ライちやんはだんだん岸の方に汽船が進むやうにお水をツウツウと切つて

と引つばられて來ます、
シユウ シユウ シユウ シユウ シユウ シユウ

「サア今度は早く引つばるよ、しつかり持つてお
うよ」

へやれ引けそれ引け

えんやらさ

コラえんやら えんやら

えんやらさ

と引つばりますと、ライちやんの方も早く

シユウ シユウ シユウ シユウ シユウ シユウ

と岸のところまで、やつと參りまして、「お手々を
引つばつてあげるよ、ソラ ヒイフウのミツ と」

やつと岸へあがりました、ライちやんはたすけて
もらつて大よろこび、

「太郎さんありがとうご いました。」

「どうしたの、君、もう水泳は寒くて風邪を引く
よ」

「泳いてゐたのではありません、天からおこつた
んです」

「君は一體なんだい」

「私は雷様の ライちやん と云ふんです、あなた方の幼稚園があまり面白かつたので、つひ踊り出したらお池の中へおつこらたんです、おかげで命がたすかりました、そのお禮にこれをあげませう、これは太鼓です」見ると、小さいきたない太鼓ですもの、

「僕そんなきたない、小さい太鼓なんかいらぬい
家にもつと上等の、大きな太鼓があるよ、お禮
なんかいしよ」

「太郎さん、この太鼓は、あたりまへの太鼓じやありません、太郎さんのほしいと思ふものを云つてトントコトンのトンとこの太鼓をたゝきますと、ちやんとそれが出て來ます。太郎さんの命令をよく聞く太鼓ですから、とつて、置いて下さいな」

「さうかい、面白い太鼓だね、僕が命令をしてトントコトンのトンとたゝけばその通りになるのかい、面白いな、そんなら僕いたゞいて置かうよ」

「それでは太郎さんさようなら、」

「ありがたう、又遊びにおいでよ」

「面白い太鼓だな、僕のすきなものが出て來い、と云つてトントコトンのトンとたたけばなんでも出て來るんだからな、面白いな、よしミルクキラメルを出してやらうかな、ミルクキラメル出て來い！トントコトンのトン」とたゝきますとミルクキラメルが太郎さんの前へバツと出て來ました、「オホ、ミルクキラメルが出て來たぞ、た

べて仕舞へ」、ムシヤムシヤムシヤとたべてしまひました。

「今度は、おまんじう、よし、今度は大きな大きなすいかよりまだまだ大きい、おまんじう出て來い！トントコトンのトン」とたゝきますと大きな、太郎さんの頭の五倍もあるやうな大きなおまんじうが出て來ました「イヤウ、大きなおまんじう、たべて仕舞へ」ムシヤムシヤムシヤとたべて仕舞ひました。

「よし。今度はサーベル出てこい！トントコトンのトン」とたゝきますと、サーベルが一つ出て來ました。

「ヤア、サーベル、サーベル、おこしにつけて、よしよし、今度は、さうだ望遠鏡だ、今度は望遠鏡出て來い！トントコトンのトン」とたゝきますと、立派な上等の望遠鏡が出て來ました。

「ヨウ望遠鏡、肩からかけて。今度は飛行機を出

してやらう、大きな大きな、上等の飛行機出て来いートントコトンのトン」とたゞきますと、立派な飛行機がブルブルブルと出て来ました。

太郎さんは大よろこび飛行機にとびのつてだんだん高く飛び出しました。

お山をいくつもいくつも越えた國へ来ますと、大人も子供も鎮守様の前へ集つてわいわい言つてゐます。その内子供たちが歌を歌ひはじめました。

ハ雨　こんこん　降つてくれ

あしたの晩に降つとくれ

あめこんこん降つとくれ

あしたの晩に降つとくれ

「オヤ、あかしい歌だな『あしたの晩に降つとくれ』だつて、どうしたのだらう」

飛行機をだん／＼低くして、おりて来ました。

「どうしたの、あめこんこん降つとくれ、あしたの晩に降つとくれだつて、あかしいや」

「雨が降らないとお米が枯れて仕舞んですよ、それにね悪い鬼がゐる雨の神様だとか雷さまを夕焼雲の中へおしこめて雨を降らさないやうにしてゐるんです、今日で一月も雨が降らないんですもの、それでみんなが、大さわぎをしてゐるのです」

「エ、悪い鬼が雨の神様や雷様をひどい目に逢はせて、その上お米を枯らして仕舞ふ考へなの、よし僕行つて鬼共をたいじて来るよ」またもや飛行機にとびのつて天の方をさしてまつしぐらに飛び出しました。

空の悪い鬼たちはこれを見て「チャア太郎が飛行機にのつて生意氣にやつて来たな、すぐ王様に申し上げやう」

このことを大王様に申し上げますと鬼の大王様

大變に怒りました。「よしみなものうちにしてしまへ」鬼共は弓に矢をつがへて雲の下の家まで進んで参りました、その勢たら大變です。

太郎さんの方では平氣なものです。「弓なんか持つて來ても平氣だよ」矢があとがへりせよ』トントコトンのトンとやると矢があとがへりをして自分たちのお目目へチクリとささるから面白いな」鬼の王様「よしみなもの弓に矢をつがへて、さあいゝか、あの太郎の胸をよくねらつて、太郎の胸をうて、イチ ニイ サン と云ひますとたくさんの矢が太郎さんの胸の方をむいてとんで來ました。面白いな、あとがりをして自分たちのお目目をチクリだよ」そろ今飛んで來た、矢はあとがへりをせよ』トントコトンのトン」

とたくしますと太郎さんの胸の處まで來てゐた矢がクルリとうしろ向きになつてそのまま、もと來た方へブーンと、あとがへりをして、鬼の目を

チク チク チク とつきましたから、鬼たちは驚ろきました。

「ヒヤ、アイタツタツタ、太郎さんごめんない、ごめんない」

みんな降参して仕舞ひました。

鬼の王様はこれを見て、火のやうになつて『よし太郎とやら生意氣なやつだな、こうしてやらう』とそこにあつた百貫もある電信柱の様な大きな鐵棒を、キリキリキリとふりまわして、太郎さんの飛行機へポイツとなげつけました、太郎さんは平氣なもので、

「よし今度は鐵の棒だな、又あとかへりをさせて鬼の王様の頭をコッコツとたゝかせてやるぞ、面白いな、トン トコ トンのトンだよ、面白いな」その内に鐵の棒がブーンと太郎さんの頭の上まで飛んで來ました。

太郎さんは平氣なもので

「面白いな、鬼の王様の頭をコッ コッ コッだ」
 「鐵の棒はあとがへりをして鬼の王様の頭を、コッ コッ コッとやつてやれ！ トントコトンのトン」とうちますと鐵の棒はブーンとうしろを向いてもと來た方へ飛んで行つて鬼の王様の頭を、コッ コッ コッとうちました、鬼の王様はちどろきました。

「おや、アイタツタツタツタ」しかし王様ですものなかなか降參をいたしません。

「何を生意氣な太郎 なんて降參なんかするものか死んでもおじぎをしないぞ」

とふんどり反つて、おばつてゐます、太郎さんは「いやにゐばつてそり返つてゐるな、なに、いまにおじぎをさせてやるぞ、トントコ トンのトンだぞ」

「おじぎなんかするものかい、ウーン」

「面白いな、おばつても駄目だよ、鬼の王様ペコ

ペコペコとおじぎをして降參をして仕舞へ！ トントコトンのトン」とうちますと、いばつてゐた王様もたまりません。ペコペコペコのペコとおじぎをして、とうとう降參をしてしまひました。

そこで雨の神様も雷様の母さんもライちゃんもみんなたすけ出しました。

雨は一どきにザーと降り出しました。村の人たちがどんなによろこんだこととせう。

「お米が枯れないでよかつた、これもみんな太郎さんのおかげだ、」と云ふので御褒美に大きい大きい勳章を十もお胸へつけてくれましたとさ。

お囃をいたします通りに書いて見ました。なほこのお囃は大阪、名古屋、東京の三放送局で放送をしたことがあります。

太鼓は玩具の太鼓を實際に打つて見ると面白いと思ひます。

出来るだけリズムカルにやつていたいくと結構です。

童話 不思議な鞠

女高師附屬高女 水谷 年惠子

百太郎は山の中で路にまよつてしまひました。さあどつちへ行つたらお内へ歸へられるのか、さつぱり分りません。百太郎は困つて泣き出しさうになりました。

「お父さんが來て呉れるといゝなあ、お母さんが來て呉れないかなあ。」と思ひましたが、變な聲で鳥が鳴いたり、がさ〜と狐だか何だかが通つたりする外には誰も百太郎を迎へに來て呉れる人はいませんでした。

百太郎はとう〜泣き出してしまひました。山の樹が風に吹かれて、さら〜と鳴るとなほ〜淋しくなつて、大きな聲で泣きたてました。

あまり泣いて、泣き疲れると、百太郎は其の場でぐう〜と寝込んでしまひました。暫くして眼が覺めて見ると、百太郎はびつくりしてしまひました。そして、

「ひやあー、綺麗だなあー」

と大きな聲で叫びました。それも其の筈、百太郎は今びか〜光る御殿の中に居るのです。そればかりか、百太郎のすぐ側には、それは〜美しい山の女神様がいらつしやるのですもの。

「百太郎さん、眼が覺めましたか。」

と山の女神様があつしやつた時には、百太郎は山の女神様をじいつと見つめただけで、何もものが言へませんでした。

御殿のお庭には、色々の花が一面に咲いてをりました。お庭のむかうの方には、珍しい寶物でいっぱいになつてゐるお倉が、幾つも幾つも並んでゐました。何を見ても美しいもの、不思議なものばかりで、百太郎は眼が見えなくなつてしまひさうでした。

山の女神様は百太郎に、

「百太郎さん、何でもあなたの欲しい物を上げませう。何が欲しいか言つて御覽ん。」

とおつしやいました。百太郎は何を戴かうかと方々見廻しました。

お庭の花は、白も赤も紫も皆さら〜と輝いて何年たつても散らない花でした。お倉の中の寶物には、眞珠やダイヤモンドで飾つた靴や、かぶると暗がりでも眼の見える帽子もあります。もの言ふ人形もあるし、駆廻る木馬もありました。

山の女神様は、

「ねえ百太郎さん、あなたの欲しい物は何でもいから持てるだけ持つていらつしやい。」

とおつしやいました。百太郎は暫しの間考へて居りましたが、

「お姫様、欲しい物が一つあります。」

と言ひました。

「何が欲しいの、さあ言つて御覽なさい。」

「私はゴム鞆が一つ欲しい御座います。」

「え、ゴム鞆が一つ。たつたそれだけでいいの。」

「はい。私はゴム鞆が一番欲しい御座います。」

山の女神様はおつきの者にお言附けになつて、方々おさがさせになりました。やがて一人のおつきの者が、古いゴム鞆を一つ、何處からか見附けて持つて來ました。山の女神様はそれをお取りになつて、

「百太郎さん、これでいいの。」

とおつしやつて、百太郎にお渡しになりました。

百太郎は其のゴム鞆をおし戴いて、大事さうに懐へ入れました。ゴム鞆を懐へ入れる拍子にバツと御殿が消えて無くなつてしまひました。其處にはもう山の女神様もいらつしやいませんでした。お庭の花も、寶物のお倉も、何も彼も無くなつて其處は草や樹の一面に生えたお山の中でした。百太郎が路にまよつて、泣き出して眠つてしまつた其のお山の中でした。

百太郎は美しい御殿や、山の女神様の事を考へて、あれは夢だつたか知らと思ひました。そして懐の中へ手を入れて見ました。すると古いゴム鞆がちやんとはいつて居ました。

「ちやく、ゴム鞆はちやんとある。」

と言つて、ゴム鞆を出して眺めて居ました。すると、ゴム鞆がぼんと手から飛下りて、ころころところがり出しました。百太郎は大事のゴム鞆をなくしては大變だと思つて、其のゴム鞆を追

駈けて行きました。

ゴム鞆はどんくくくころがつて行きます。百太郎が追駈ければ追駈ける程、ゴム鞆は勢よくころがつて、何處まで行つても止まりません。百太郎は汗を流して、一生懸命で追駈けました。

其の中にゴム鞆はよそのお内の中へ飛込んでしまひました。百太郎も續いて其のお内の中へ飛込んでしまひました。すると、

「ちやく百太郎ぢやないの。」

と言つた人がありました。見ると、それは百太郎のお母さんでした。其のお内は百太郎のお内でありましたとさ。

私の視察したる歐米の幼稚園教育

堀 七 藏

一

私は昨年四月文部省在外研究員として一年間英國に留學を命ぜられました。僅か一ヶ年のことではありませんから何程の研究も出来る筈がありません。また實際は研究といふ研究が出来ず普通は視察に止まることも十分承知して居ります。そして規察といつても文字通りの所謂視察で單に視て察するのが關の山であらうといふことは出發當初から考へて居りました。その筈で、日本語は國語でありますから、たとへ發言が悪くともなまりがあつても一通りは話すことが出来ます。勿論上手ではありませんし、自分の思つてゐることも十分發表することが出来ない勝てあります。しかしども

りでもおしでもありませんから日本語は十分話すことが出来るといつてもよいと思ひますが、さて外國語になるとてんで問題になりません。多少英語と獨逸語は分りますが、それも簡単な書籍か辭書と首引で漸く讀み得るといふだけ、會話などになると問題にならぬ位拙劣であります。況やその他のフランス語でもイタリ語でもまたスウェーデン語もノルウェー語もまた、デンマーク語も皆目分らないのであります。それで幼稚園教育を視察する目的で出かけたのでありますから無理も甚だしいといふことになります。殊に我が國に於ける幼稚園教育の實情も殆ど知らず、また幼稚園關係の事項も知らないことに頓着せずして歐米の幼稚

園教育を視察するのでありますから幸によく視ても眞に正當な考察の出来る筈がありません。兎に角盲目蛇におちずといふ譯になりませうが、歐米の幼稚園教育を視察する目的で出かけたのは事實。命令は英國だけであります。單に視察だけてありますから廣く多くといふ要求を満足する豫定でありました。

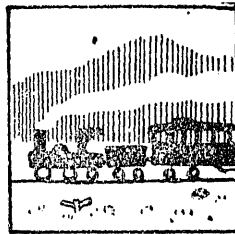
英國ロンドンにつきましたのが六月十五日で、五十餘日の航海は至極平穩無事でありましたが豫想に反して英語の練習が殆ど出來ず、従つてロンドンで既に面喰つたのであります。私は常に單獨行動をとり自分の欲する所、好むところ、興味を持つた事を視察したいと考へましたから、通譯を頼んだり友人の助力を仰ぐことは一切せぬ方針にいたしました。それで不自由もあり、徹底しないことも多かつたのであります。また案外便宜な場合もあつたと信じて居ります。英國ロンドン

に滞在中、グラスゴー、エデンバラ地方に旅行して七月廿七日飛行機でロンドンからブラッセルまで飛んで行き、それから白耳義、和蘭を通つて獨逸ハンブルグ市に行きました。茲て友達を待合せ獨逸國內をライン河に沿うて旅行いたしました。勿論夏季休業中てありますから學校も幼稚園も參觀出來ませんが、理化方面の視察を兼ねて見物する豫定でありました。ブレーメン、ケルン、フランクフルト、ダルムスタット、ハイデルベルグ、バーデンバーデンと一泊しつゝライン地方の見物や工場などの參觀をして瑞西に入りました。入口のバーゼルで歐洲各國の水力事業博覽會を參觀し瑞西の首府ヘルンを経てインタラーゲンに行き有名なユングフラウに登出し、湖水を渡つてルツチエルンに至りイタリーのミランに出ました。汽車旅行であります。寢臺車で眠つて通ることをさけ、せめて汽車の窓からても各國の風土産業の

有様、また風俗人情なども瞥見することが出来る工夫をいたしました。イタリアのミランからゼノア、ピザ、ローマ、ナポリと矢張り中汽車旅行をいたし、更に引返してローマに来てフロレンスからヴェニスに行き、オーストリアのヴィーン、チエスローバキヤのブラーグを経て獨逸のドレスデンに至り、ベルリンからハンブルグに歸つたのが九月一日で丁度夏の最も暑い一ヶ月を旅行に費しました。ハンブルグでは八月下旬から學校が始まつてゐますから參觀したり見物したりして更に九月十一日からスカンヂナビヤに單獨旅行をいたしました。瑞典のストックホルムから諾威のオスロまで行き半島の先端を下つて丁抹のコッペンハーゲンに至りオーデンスでカッセルで有名なアンダーゼンの舊家を參觀して三度ハンブルグに行きました。茲で秋のジャガイモ收穫休業に出くわしたのてベルリンに出たのが十月一日であります。ベル

リンでは一ヶ月滞在して毎日早朝から學校參觀に出かけて豫定の見學を終り、十月三十一日天長節日本國民が擧つて聖壽の萬歳を祝して居ります日に私は大雨の中を獨りミュンヘンに向つて旅立ちました。途中ニュールンベルグなどを見物する豫定のを變更してミュンヘンに急ぎ、更にチューリッヒ、ゼネバと旅行してフランスのリオンに出てパリに行つたのが十一月八日であります。そしてパリでは二週間滞在して十一月廿日すぎロンドンに再び行きました。茲で有名な濃霧を経験し冬の幼稚園ガールガイドなどを見學して昭和二年一月一日ロンドンを出發して大西洋をわたり一月十日に北米合衆國ニューヨークに到着いたしました。それからワシントン、ボストン方面に旅行してシカゴに來り、更にロスアンゼルス、サンチエーゴ等を見物してサンフランシスコに出て三月廿九日出帆地球一周をして横濱に着きましたのが四月十

四日。長いやうで短い一ケ年、三百六十五日から十日足りない三百五十五日。船に乗つてゐる間は外出も致し兼ねましたが他は一日として參觀や見物に出かけないことなしといふ具合に飛びまはつたのでありますから、幼稚園を見ただけで十分考察することも出来なかつたのであります。しかし貴重な本誌を割愛して頂き一ケ年間に私が視察した幼稚園教育の大要を掲載することにいたしました。多少とも参考となりまた讀者各位の疑問を喚起することが出来れば幸甚と存じます。(昭和二年四月廿七日稿)



春のよろこび (うづま)

土 川 五 郎

第三、 1……4 奇生は躊躇し両手前膊を立て脈所を合せ掌を開き花を作る。

偶生は左手を出し上に向け右手にて花を取る如くして右廻りして奇生の周圍を一週す

(八歩花を取ること四回)

5……8 偶生躊躇し兩手にて花を造り、奇生は偶生の周圍を一週す。

9……10 全生手を取り之れを左上にあげ顔は右上に尙け、右足を右方に伸ばし左足にて左方へ跳

ぶこと四回。

11……12 全生前の如く手を取り之れを右上にあげ顔は左上に向け左足を左方に伸ばし右足にて右

方に跳ぶこと四回。

13……14 全生手を離し兩手を振りつゝ駆走にて右回轉す。

15……16 手を腰足踏三回。

第四、1 2 …… 全生手を取り左へ三步右足をあげて左足にて跳ぶ。

3 4 …… 右足を下ろして左回轉し直ちに手を取る。

5 6 …… 右へ三步左足をあげ右足にて跳ぶ。

7 8 …… 左足を下ろして右回轉す。

9 10 …… 奇偶兩生相對し兩手を取りスキップにて左廻りして(一ト二ト三ト四即四呼間)

11 12 …… 逆に右廻りして舊位に復す。

13 14 …… 内側の手を腰にし外側の手を(奇生は左手偶生は右手)高くあげて奇偶各自分の手の下を

くゞりて内方を向く。

15 16 …… 拍手二回兩手を前方より斜右斜左へ開き上體を後ろに屈して上を向く。

——終り——

ある幼稚園の一日

つ　　ば　　な

朝清めのすんだ室の窓は全部あけはなれて、ピ
アノの上の籠には、つゆながらの、野ばらの花が
人まらがほに香ひこぼれてゐる。

キルク張りの床の上には、がつしりした木製の
八角テーブルが一個、まわりに同じ色の木製の椅
子が十六竝んで居る、テーブルの上には、角封筒
と小さい小包の箱が乗てゐる、うららかな初夏の
朝日が雑木林を通して、庭と云てとりたてゝ限つ
てはない自然の丘や畑つゞきに室の内外にみなぎ
つてゐる。いゝお日和だ、こんな日に先生がいら
つしやればいゝが「獨語つともなく思ふともなく
してゐると。

「おばさんく、みやげだ、鶏に」息せきながら

まるくよく肥つて、とび色に日にやけた兩手
を、そうつと、確かり組み合せてかけこんで來た
のは六歳にしては少し大きい男の兒、

「大層いそいで權ちやんなあに」

「うむ、けいろつかまへて來た、ビョン／＼て、
あそこの野らはねてたやつ、おらんとこの鳥はよ
ろこんで食ふけ、おばさんとこのにも食はしてみ
な、おれがやつて來らあ、まだ、だあれも東京か
ら來ねえか」

おばさんのうなづくのを見て「やつぱり一番だ
あ」男の子はうれしさうに裏の鳥小屋へかけて行
た、市内に居た時分鰻の頭やどぜうはよく買ってや
つたけど蛙なんかをたべさせた事のないおばさん

は、

「今日も権ちゃんに、一つをしへてもらつたのね」と云ひながら権作の頭をそつとなてた。

「あばさん、あれあ 家からも みやげ もつて来たど、ちらが生れた日だ云て お母アがあづき飯たいてくれたどから東京のおぢさんの分も云てたくさん握てもらつて来たど、おぢさん今日来るけ？」

「さう、そりあおぢさんがあよろこびなさるわ。きつといらつしやる。」

権ちゃんに失望させまいと思つて「きつと」と云ひながら自分の希ひも入れてあばさん自身も「先生は今日きつといらつしやる」と思つてしまつた。

「あばさん、あはようございます」玄關で聲がする。

「あ、芳子さんあはようまあいゝれんげを」と、芳子の後から年若い女中が何か云ひにくさうにし

て居る様子をみて、「義雄さんどうかなさつて？」

「はい一寸丸木橋のところて、あすべりになつて」「さう、ぢや風呂場の方へあまはり下さい」

「おそれ入ります、芳子さまは？」

「芳さんはお姉様だから、いつものやうに、そつとお一人で出来ますね」芳子の健康に異状のないのをたしかめて「今日はお畑で大根をうるぬきますから、はだしになつて、上衣もぬいてね」

黙てうなづいたまゝ、氣づかはしさうにしてゐる女中にはかまわずに芳子はさつさと玄關側の下駄棚に靴も靴下もぬいて入れ、上のくぎに上衣をかけバスケットを食用棚にあさめると身がなるになつて物置小屋の方へ素足でとんで行つた、年は春生れの七歳でも都會で深窓に育つた芳子が、はだしを何とも思はないまでになるにはずぬふんあばさんも骨を折たのだがこの一週間めき〜とその甲斐が表れて来た。

濡れた着物を小ざつぱりと下も上も着更へた明

ちやんは、日あたりのいゝペランダで昨日河原から拾て来た石をならべて遊んでゐる、その中に五郎さん進さん百合子さん京二さん達も前後して来る。安さんはこの園に来てまだ三日目、病身で神經質で大人のやうに潔癖なこの男の子をどうかして自然の懷で健康に育てたい、のび／＼と活々した子供に育てたい、あけるから暮れるまで實驗室には入りきりの學者を父にもつた子供で、一人子であるといふ所から、安さんのお母さんの養育の苦勞は一通りではない、幸に、「自然に融合する事」を標語とするこの幼稚園をのぞましい郊外の自然の中に發見してお母さんは「嬉しさに高鳴る胸の鼓動は、少女の日にも經驗したことのない位」と日誌に記したほどよろこんだのであつた。

「安さん、皆お畑に行きます、ほらおばさんも」

はだしになつたおばさんは、軽く促してみが、

だめであつた。

「それじやお母さんも、ねおばさん、はだしはよい氣持ですこと、今日はお母さんもエブロンを持て來ました、」お母さんは手早く包の中から出して身じたくをし、足袋をぬいで庭に出た「ペランダで小石を積んでゐた四つの明さんが、「僕も」と云て素足でかけ出した。安さんは未だ動かない。

お母さんは、あせる氣を自ら制して何とかしてこの不自然な我子を動かさうと思案の末、「じやあ安はお留守番をしてゐらつしやいね、母さんはおばさんや皆さんと一所にお畑へ行て來るから、雲雀の赤ちやんがゐるかしら」では睦子さん、安はお留守番をしてゐますからベビちゃんと一所に願ひます」と云て、心は十二分に我子の上に残しながら畑の方へと急いで行つた。

睦子さんは近くの〇〇學園をこの三月卒業して兒童問題、婦人問題の研究に志しまづ幼児研究の

目的で、同時にこの園が草創の際であり、おばさんと呼ばれる實は睦子さんに取ての舊師の片腕になつて其勞を助けん爲に、進んで無給に嬰兒科をひきうけてゐるのである。ベビちゃんは七八丁はなれた處に、御兩親共市内にお勤めになるので、出がけにあづけてはかへりに伴れて行かれるのが例になつてゐる、こゝの嬰兒科の唯一人の生徒さんである。腹まきと晒木綿のはだ着、その上に薄い毛のコンビーを着ただけ、まる／＼と肉づきのいゝ足を達者に運ぶ様子は誕生前の子とは思はれない。

「さあ、孝さんもこの上がいゝわ、今日はお家中なんかにおちや勿體ない」と睦子さんが庭へ下すと、そこには小さい鈴のやうな、だんの花が一面にこぼれてゐる、小さいものによく眼をとめる幼な兒は、黙つてかゞんで花を拾ひはじめた、用意のいゝ睦子さんはポケットから元結を出し

て、孝さんが、全身の注意を地下と指先にあつめて拾ひ上げる花の一つ／＼を綴てやつた。

「安さん、あなたも通さない？」

無造作に元結を出すと、明ちゃんの積残しの石をしかたなしにいぢつてゐた安さんは、ツと立て玄關から靴をはいて廻て來た、とたんに音もなくこぼれ落ちた花が、かがんでゐる子のやはらかな頭の毛にとまつた。

「ハハハ、お姉さん、ベビちゃんの頭の毛に、」思はず破顔した安さんは、「僕、これを通してもし

Sc 1

睦子さんは微笑みながら無言でうなづいて見せた。安さんは恐い物にても觸れるやうに、さうつと幼な兒の髪の毛から花を拾ひ上げた、何かさわられたので敏感な幼兒は二三度横に頭をふつた。

「痛かつたの、ベビちゃんごめんさい」不安さうにのぞく安に、にこ／＼と笑みこぼれてみせた

嬰兒の笑顔は安の顔にも、見守る人にも傳つて行く、と玄關の方に聲がする。

「小父さん、今日お話してね、お話のお土産持て来るつて、いつかお約束したんだもの」

「うむ」布袋さまのやうに子供の群にかこまれてうなづきながら、ほゝ笑みながら、ゆるやかに歩を運ぶ、「小父さん」を、

「小父さん、は、トロッコだ、さう皆で押して行かう、ゆるい丘の勾配を、ウン／＼と幼兒の群は押して来る。

「あら、先生、よく、思はず睦子は玄關の方へ小走で出迎へた。「まあ皆さんも」

「久しぶりで今日は生き返つた、丁度、今電車で、皆さんと一所になつて、いゝ日和です、どうです睦子さん、鶏百首ぢやなくて、子供百首でも？」

「ホ、先生、それどころぢやないんですの、百首どころぢやありませんわ、先生から机の上で話

は伺てゐたけれどこんな豊富な、こんな純な、涙ぐましい世界だとは思ひませんでした、私、歌へすぎて歌へない、歌へないかはりに、生きてゐる喜の實感を、しつかり、こうして大地を踏んでゐるやうに握つてます、机の上の生活では、とめどなく懷疑がわいて息詰るやうな苦しい生活が生れたのですけど、そして哲學よりも、ほんとうに今までと違つた、理論ではない、實在の信仰といふのでせうか禮讚といふのでせうか、近頃は、此世が、輝やかな天園か極樂のやうに思へますの、」

「睦子さん、その氣持、その氣持ですよ」「今日はちよろこびを言ひに來たやうです、ね」満足げに破顔した先生は今更のやうに身も心も希望にあふれかゞやいてゐる若い睦子の姿を、ポツチエリーのヴィナスの誕生の繪の前に立つた様な思で眺めてゐる。子供達は睦子や小父さんの話がわからないので、汗を拭きながら靴をぬぎ、先に來た子等の

上衣を見て、バスケットを食事戸棚に納めてから各自上衣を脱ぎ、素足になつて物置小屋へ行つた、箒を持つものシヤベルを取るものとりどり、小屋の横の小塗板に、

「ハタケニキマス。オバサン」と書いてある。

「畑だ、畑だ」一人が云ふと一人が「また小父さんを押しこよう」

「小父さんはこんどはベビちゃんとお遊ばふ、お姉さんと皆で行てらしやい」

「ぢやあ先生、御願ひします、さ、みんなて馳つこして行きませう、よいい、どん」

「私一ツと、元氣な秀子さんは男子達をはるかに追ひ越して先着した、

「おばさん！ あはようございませう」

「あはよう、秀子さん、今いらしたところ？」

「え、小父さんも、電車で一所になつたの、みんないま來ますよ、おばさん、この土の低いとこね」

「おばさん、あはよう」おはようございませう

「あはよう、宏さん、豊さん、守さん、あはよう健ちゃん、道子さん、泰子さん、あやッ、おばさんはほんとうに驚いたのだつた。

はいつてからまだ三日、ことに神経質な、都會病を大人のやうにうけた安さんがこんなに早く土に親めやうとは思はなかつた。しかも素足でシヤベルを持って皆の群に加つてゐた。おばさんは奇蹟といふ字を思ひ出したりした、そして傍に立てゐる陸子さんの若々しい姿が、マドンナのやうに輝て見えた。

「まあ、陸子さん、安さんのえらくなつたことね」

お母さんは、あふれる喜をつゝみきれないで、黙て安さんを手招ぎして、

「雲雀の赤ちやんよ、そうつと、靜かに、土の低くなつてゐるところを歩くのよ、」

お母さんや安さん、と五六人が雲雀の巢を見に

行てる間に、おばさんと先に來た子達は箒にいつばいになつた、摘み菜を持って園の方へ歸つた、

「おばさん！おぢさん來たとか？　おれあ、今日は又お話さくだあ、もうせんの約束だつけなあ」「うむ、うれしいなあ」「うれしいなあ」と權ちやんを先に子供達の足どりは、すてにスキップになつてゐた。

月に一度か二度多忙な公務の暇に先生がこの園を訪はれる事は、先生御自身にとつて、またおばさんや睦子にとつてはなほさら、幼い群からも最も樂しみな事の一つになつてゐた。

小川で足を洗ひ、手洗場で顔や手を清めてゐるうち、芳子さんの女中さんはお茶の用意を手傳た。安さんが少しづつ、友達と遊ぶやうになつたので、お母さんは欣事場で、摘み菜を作るのを手傳て下さつた、その中に睦子さんへ行つた二群が眞赤になつて歸て來た。今日はお畑よりマラソンになつ

てしまひましたのよ」汗ばんだ額の毛をかきながら睦子さんも空の箒をふつて見せた。その内ウエフハース三枚と小さいお鹽せんを各自の小さいお皿に盛たのを、百合子さんや秀子さん達が一つ一つ運ぶ、テーブルをかこんで、新鮮な牛乳と、ほどよく出た紅茶が疲勞とまでは行かない軽い疲れと渴を充分に癒す。ベビちゃんはお父さんの大きなお膝の上で、目を細くして無心にお乳をのんでゐる。

おばさんは、今朝から人持ち顔のテーブルの上の小包と封筒を取り上げて、「先生、福島から便りが來ました、」思はず「先生」と言て、はつとしたおばさんは、子供達にすまないやうな顔をした、さういふ昔の教へ子（おばさん）の癖や、氣持をよく知つてゐる先生は、

「何がはいてゐるかしら」と箱に子供の注意をあつめてから、何げない調子で、「おばさん、お手紙

をよんで下さい、ね、みんなてきませう」

「おぢさん一寸その箱かして」と權ちやんは小父さんから箱をうけ取つて、「かるいよ、おもちやぢないぞ」と真面目になつて考へ込んでゐる。「僕にも、「私にも」一順箱が小さい手を渡つた時、おばさんはゆつくり、はつきりした發音で、片假名で記してある方の手紙をよんだ。それには周子さんが、幼い従弟さん達と一處に摘み集めた谷間の姫百合が、無事に武藏野へ着くやうにと書いてあつた。

「あら、すずらん、少女らしい喜びに、睦子さんは「私開けませよう」と箱を受け取た。蓋の開いた瞬間清らかな深山の香が、あたりに流れた。送つた人のやさしい心づくしも、「にほひ、にほひ、おいしい香だ」「バナナのやうだ」子供達は、口々に云ふ。おばさんは、レンガ色をした壺を出して睦子さんに渡した。壺に水の運ばれる間に、おばさ

んが「ては腹に」といふと各自茶わんとお皿を炊事場までそつと運んだ。

「おばさんお手傳ひ」芳子さんと美代ちやんが炊事場で、おばさんの洗つた器を戸棚におさめてゐる。芳子さんのお家の女中は、摘菜やよめ菜を洗つてゐる。

ベビちやんはお睡になつたので睦子さんが東の室のベットにねかして室のカーテンを今閉めたところ。

「お姉さんいゝお天氣だからお人形の着物洗いでしてよ、四五人の女兒は小さい洗面器を手に手にお風呂場へ行く、

「春子さん、ちやんの中のラクスを少し皆さんの洗面器に入れといてちやうだいね」

睦子さんはすぐ後から、ぬるま湯を持って行つてラクスを溶いた。女兒達は白い泡を立てたり消したり、うれしさうに洗濯をしてゐる。

「お姉さん白くなつたでしよ、こんなに」

「え、芳子さんの、も少しゴシ／＼こすつてごらんなさいな、もつときれいになりますよ」

日あたりのいゝ南側の楓の低い枝から枝へと小さい干物竿をわたして、干物おさへを數だけ風呂場の棚にのせ、睦子さんはベビちゃんのパットをそつと見に行た。

秀子さん泰子さん道子さん達はそのあとで各自の干物をほしあげ、おさへで止めてゐる、若葉をわたるそよ風が、汗ばんだ子等の紅い頬とつやつやしたふりわけ髪をなで／＼行く。

と、いつのまにかかゝるいいでたちになつた小父さんは鍬を肩に、その前には男の兒等の一群が何か重さうに、「こんどは僕の番」「僕も」とかはり合せて、かついて來るのは、裏の竹林からの掘り出しもの、

「まあ美事な」と笈を賞めるよりも、まづおさん

の母さんの目にうれしかつたのは友達の群に交つて泥だらけの手足をし、めづらしく上氣した我子の頬、何かたのしげに隣の子と笑みかはしてゐる様子だつた。

「まあおぢさまのおかけ様で、戀人の安も土の子になれました」

「ハハ、ハ、土の子ですか、安んさはこうして一月もおつづきになれば見違へるやうに健康になりますよ」小父さんの言葉には豫言のやうな力強さがあつた。

「皆さん、もうぢさぢ晝よ、いまベビちゃんが睡てゐるから、しづかにお仕度していらつしやいな」睦子さんの言葉に、皆黙てうなづいて、流れの方へ急いで行く、「僕、おぢさんとだ」年弱の進さんは、子供のやうにくぼみ出る肉付のいゝおぢさんの指一本にかぢりついて悦に入てゐる。

片手に鍬を下げておぢさんも流れの方へ行かれ

る。

あとで、百合子さん、芳子さん達は晝食のテーブルのお手傳をする。

流れから歸つた子等は各自手拭を浴場にかける、おばさんはみんなのはちきれさうな、つややかな頬をながめながら、「お身體も拭いて？ 汗になつたシャツは盥の中に入れていらつしやい、洗たのが棚の上にあるから着てね」

身も心もさばくと、定まつた席につくと、テーブルの上には、大皿に赤の御飯の小さいお握りがつてある、各自の小皿に午前に摘んだ、つまみ葉のおしたし。小さい箱にぎうづめの御飯は味がわるいし殊に冬は、炊き立ての方が、おいしいし、手間はわづかだからといふおばさんの心盡しに、此の園の子等は、晝はいつも出来立てをいだけく事になつてゐる、副食物は各自の嗜好もあるので、家庭から持て来る。

「今日は權ちやんのお誕生日、これはお母さんとこのおばさんのお心入れてすの」「おあ、權ちやんから」睦子さんのとりまわしが、すむと、おぢさんが「權ちやんおめでたう」「みんなも」「おめでたう、く」「祝辭をあびて少し當惑氣味な、權ちやんに、おばさんは小聲で「ありがたうは」はつきりした語調で「ありがたう」と返した權ちやんはやつと吾に返つたやうな様子で「おぢさん、おらあんとこで握たやつ喰つた？」と問た、「今朝から權ちやんはおぢさんにごちさうするんだつて楽しんで居ましたの、よかつた事ね、思た通りおぢさんが来て下さつたから」

この時ベッドを滑り下りた、孝さんは、カーテンをくぐつてすたくと皆の方へ出て来た、

「まあ、お目々さめたの、一寸ごめん下さい。用を足させてから席にかへつた睦子さんは「さあ、あなたも一ついたゞきませう」おむすびをスプー

ンてくづしては蕾のやうな口にふくませた。

「これはいゝ香りのつまみなですわね」「あぢさんの
お好きなのも摘みました」

「さうでせう、どうもつまみなばかしてはないと
思ひました、まだよめながこんなにかかてすか」

「少し育ちましたけどこれは芽のところだけつみ
ました」

「今日のオムレツはプリモースの卵でございます
が、いかゞでせう？」

「市内のは生み立と言てもかうはいきませぬね」

たのしいさゞめきのうちに食事が終つた。各自
は自分の食器を、さうつと臺處にはこんで、湯呑を
持て風呂場にまわり歯ブラシを使つてゐる。その間
に食事の當番は臺所で、あばさんのお手傳をする。

男兒達は木製の椅子を片づけて、窓際のソーフ
アに椅る。

さつきからレコードを選つていらしたあばさ
んは、ソーフアの子供等に「何がいの？」と問
はれた、「朝がいの」「僕も朝だ」

「森の鍛冶屋がいの」

その中、炊事場の方も片づいて皆廣間に集て來
る。

「あぢさん、あとでスプリンググングして頂戴
ね。」泰子さんがあぢさんの耳の端に行てさゝやい
た。兩側の小室の幕もあけはなして、ベビちゃん
明さんは睦子さんとベッド兼ソーフアの上に、あば
さんは安さんの母さんと、睦子さん、少し孝さん
あづかりませう」とベビちゃんを膝にとつて皆が
思ひ／＼の席につくと、レコードがしづかにまわ
り出した。外にはまひるの陽が、新緑に反射して
あたりは夢の國か、おとぎの國のよう。

だん／＼レコードの廻るにつれ、午前のかるい
疲が出た子等は、腕をくみ合たり、椅られたりし

ながら、うとくと假睡に落ちて行く、小母さんは、さうとその上に軽い毛布をかけ、後の開き窓をしづかに閉めた。

泰子さんのおたのみのスプリングソングの頃にはみんなほんとうに夢國に遊んでゐた。

ベビちゃん丈は睦子さんにつれられて芝生の方て歩きまわつてゐた。小母さんや、安さんの母さん芳子さんの女中さん手傳つて浴場では小さい人達のシャツ洗濯がはじまる。

午後の日が斜に、雑木林にさす頃、思ひくの押花や押葉を作た子等は、おばさんに厚い御本を出して頂いて押しをしてから、みんな芝生でおちさんを圍んで、お約束のおはなしを催促する。

年長の芳子さん、泰子さんが芝生の上で、紅と白のれんげつなぎをしながらベビちゃんや明さんと遊んでゐる。

「今日は外でお茶にしませう、ねおばさん」睦子

さんはさう云ひながら牛乳とお茶の薬罐をさげて来る、百合ちゃん道子さんも、さうつとお茶碗を運んで来る。

雑音のない自然の天地、梨の花訪ふ、あぶの聲がブーンと静かな空氣にひびいて来る。

「あ、兄さんが来る、こつちだよ」権ちちゃんは起ち上つて手をふつてみせる。「まあ、ほんとうに目ざとい権ちなんだ」と睦子さんは獨語のやうに云た。「兄さん」と呼ばれるのは近くの○○學園の音楽の教師で、大變子供好きなところから専門外の幼兒研究に志があつて、學園の時間があきの時には一寸でもこゝへ來て子供達のよいお友達になるのであつた。「目ざとい」と睦子さんにはれた権ちちゃんは、こればかりではないどの方面にも正しい直感の出来る子で、父親がこゝの村長なので出入の者も多く、田舎育ちで粗野な言葉使ひではあるが、單純に物事を考へて卒直にする行爲が、

おばさんや其他の大人にとつては驚きであり喜びである、同時にそれが此園の主張に一致し、村長である父親も此園の教育方針に賛成して、是非親子をと託してあるのである。

「兄さん、又踊りたいな、弾いて」「あ、弾いて弾いて」

お茶がすむと、子供達に促がされて兄さんはピアノの前に坐つた。

「何にしよう？」

「兎がいゝ、それから汽車も」

兄さんの弾くのは曲で、唄ではなかつた。子供達は音のリズムを聞いてそれを思ひ／＼の形のリズムに表して行た。フォルテの時には全身、つまさきから頭まで思ひつきりな運動をし、ピアノシモの時には殆ど不動に近い運動をする事はこの園の子等は上手でありまた大變好きであつた。

「兄さん運動しよう！」

男の兒達が先立になつて促した。在來の幼稚園で、ともすると遊戯といふものが男の兒にさらはれるのに、この園の音楽と運動は、時には踊りになつたり、競走になつたり、兄さんを見ると必ず子供達はしなくては氣がすまない位である。

廣間の鳩啼き時計が三時を告げた頃、少しくたびれたやうな明さんの顔を見て、おばさんは、

「お家にかへりませうか」

と云た。百合子さんは、「おばさん笛の皮いつむくんですの？」

と心配さうに。「さうさう。皮をむいて頂きませうね、さうすると今晚一夜水につけられますからそして明日御飯にませうね」

皆は炊事場で、さつき掘た筈の皮をむきはじめてた。

それが終る頃玄關にはお迎ひの人が大部まつてゐる。子供達はめい／＼に歸りの用意をした、お

ばさんや睦子さん、小父さんも兄さんも入口まで送て行く、

「さよなら〜」またあした、さようなら」

ふりかへり〜帽子をふりながら省線電車の停留場の方へみえなくなつた。

この幼稚園の趣意の一部を、ぬきがさしますと。

『近代の人間はあまりに、智恵の實のみを食へすぎた、智育偏重の教育を受けた現代人は肉體と精神の均衡を失ひ自ら生活の幸福を失ひつゝある、人間は精神のみの教育では完全にはなれない、體が弱いと精神活動が充分出来ない、故に精神活動の自由を得んが爲に神經作用の研究に基いた特種な體育的訓練を要する、今假に精神と肉體との發達が完全に調和し得たら其て人間は幸福を得るであらうか、人間は宇宙、自然と關係なしには一日も存在を許されない、即ち自

然に全く融合する事が出来て始めて眞に幸福を得る事が出来る。

なほ、幼児教育の場所として最も注意を要する事は混雑と雑音を避けたい事で、廣い庭や、自然の中で靜に充分遊ばせたい願から定員を少なく(二十人)限定しました。』

つばなの語た「或幼稚園」は、晩春の野にさくつばなが、夢のやうに見た幼稚園である。しかしそれは現在に實在せずとも、すぐ次の現在に實現し得る可能性を持たものである。

強い念願は實現にまで到達するものではないか。この或幼稚園では唱歌を教へてはゐない、けれど唱歌を扱はないのではない。よめなを摘みながら、落花をつりながら幼児は何かふしづけて、口づさむてゐるではないか、幼児から、學ばう、幼児から發見しようとする所に長い時を要するのである。(一九二八、四)

稟告

- 一、幼稚園及び小學校、家庭、育児、看護等に關する論說調査研究等の寄稿を歓迎いたします。
- 一、寄稿は一行二十六字詰に記して下さい。但改行は一字下げること。また句讀點は一字あけること。
- 一、寄稿並に本誌の編輯に關する通信、紹介及び寄贈の新聞書、交換雜誌、入會手續、更に
- 一、本誌の購讀及び廣告に關する通信並に照會等一切左記編輯兼發行所宛に願ひます。

東京女子高等師範學校附屬幼稚園内 日本幼稚園協會

注文規定

- 一、本誌購讀御希望の方は日本幼稚園協會に御加入下さい。居所、氏名を明記し會費前金にて東京女子高等師範學校附屬幼稚園内日本幼稚園協會に御申下ささい。
- 一、日本幼稚園協會會員外にて本誌御注文の方は凡て前金(郵税共)で願ひます。(郵券代用の場合には^増一割増)
- 一、御送金の場合にはなるべく振替貯金で振替口座東京一七二六六番日本幼稚園協會宛に願ひます。
- 一、本誌の代金に對しては別に領收證を差出しません。特に御入用の方は往復はがきで御申越を願ひます。
- 一、會費切又は前金切の際にはその最終發送の雜誌の帶封に『前金切』の印章を押捺いたしますから其節は早速御送金を願ひます。
- 一、本誌の見本御入用の場合には前金參拾五錢發送を願ひます。

定價

| | | |
|--------|--------|------|
| 一ヶ月分一冊 | 金參拾五錢 | 送料貳錢 |
| 半ヶ年分六冊 | 金貳圓拾錢 | 送料共 |
| 一ヶ年拾貳冊 | 金四圓貳拾錢 | 送料共 |

(外國行郵税は一部金拾貳錢の割にて御拂込下さい)

昭和二年五月十日印刷
昭和二年五月十五日發行

幼兒の教育 第二十七卷第五號

編輯兼 堀 七 藏
發行者 堀 七 藏

不許複製 轉載

東京市牛込區西五軒町五二番地
印刷者 小長谷 勝之助
東京市牛込區西五軒町五二番地
印刷所 行政學會印刷所

發行所 日本幼稚園協會

東京女子高等師範學校附屬幼稚園内
振替口座東京一七二六六番

廣告

特等面一頁 金參拾圓 二等面一頁 金貳拾圓
一等面一頁 金貳拾五圓 一頁以下御斷
神田區南甲賀町八品田良松に御申込下さい

久連松 弘先生編

實物提示により

幼児に聴かせる話

四六版 極美装
黒板畫及歌譜附
總頁數二百五十
定價貳圓參拾錢
送料書留十八錢

我國幼兒の教育に就き 一大教材指導書の出現!

物心のつく三四歳から、就學するまでの兒童は、所謂「教育上の黄金期」と稱される。この時期に於ける各家庭 幼稚園の教育方針如何は、直接兒童の將來の性能と運命を決定する基本的な最も重大な時である。
今度久連松氏の編述された本書は、課目を衣服・食料・住宅・家族等十篇に分ち、一々幼兒に示すべき實物を教へ、興味深き物語、愛らしい歌曲を添附して幼兒に教へる話としての完璧を期した。今後幼兒教育は、重要視されねばならぬ。本書の爲に總てのお母様と先生方は救はれるてせう。全國の母親と幼稚園と日曜學校の先生方へ捧ぐる我國最初の贈物である。

好評圖書

小出正吾著

聖フランシス物語

野の聖者フランシスが歴の誕生から、放蕩兒としての生ひ立ち、心からの悔改めと巷の傳道、終に召されて昇天に至るまでの佳話。

價 一・五〇
税 一・一六

コフマン著

世界人類史物語

本書は人類の發生からその發達を極めて藝術的な表現を以て敘述し、夙に鳥居博士の定評である。家庭必備書。

價 三・六〇
税 二・二七

鈴木厚譯

厚生閣書店

東京六
市番
麴町
町四
區八

振五
替九
口六
座〇
東〇
京番

田村直臣先生御考案
椎名僊山先生畫

觀察カード

○兒童に觀察の必要なるは申上る迄もありません。殊更に今度幼稚園令として掲げられたるは眞に當を得たることゝします。

○觀察材料を實物より取ることは素より望む所でありませんが、材料をなるべく廣く集め且つ幼兒に觀察の興味を持たすには繪畫に如くものはありません。

○此の目的の爲に堅牢にして美しく觀察カードが生れました。

No.1 獸類 家庭用(箱入十六枚) 金三十五錢 同上 幼稚園用(八十枚) 金九十錢

No.2 鳥類 家庭用(箱入十六枚) 金三十五錢 同上 幼稚園用(八十枚) 金九十錢

右説明書(お話材料)一部金五錢 ●虫類、花類のカードは四月には發賣いたします。

發行所

東京府下巢鴨宮下一六二二

大正幼稚園出版部

東京市小石川區指ヶ谷町一三〇

一手發賣所
幼稚園用品發賣元

株式會社
フレール館

電話小石川六二〇一
振替東京一九六四〇